

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 26 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 2 件）、修士（主査 2 件、副査 0 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 10 名、前期課程 3 名、副指導教員：後期課程 2 名、前期課程 0 名）、学部生 7 名、留学生 2 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 3 件、国際会議 9 件、会議報告 9 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 1 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	A Theoretical Framework of Ecosystem of Learner Development for Designing a Practical Ubiquitous Learning Environment	Hai ZHANG, Takanori MAESAKO	2008/11/1	Springer Berlin / Heidelberg	
学術論文	異なる共同作業空間を用いた試み	中澤明子, 奥林泰一郎, スペンス ゼオースキ, 前迫孝憲	2008/11/1	教育システム情報学会誌	25/3, 329-334
学術論文	仮想的な抱擁を取り入れた遠隔カウンセリングシステム	森川治, 橋本佐由理, 前迫孝憲	2009/3/1	日本バーチャルリアリティ学会論文誌	14/1, 3-10
国際会議 (proceedings あり)	Remote counseling using HyperMirror quasi space-sharing system	Sayuri HASHIMOTO, Osamu MORIKAWA, Nobuyuki HASHIMOTO, Takanori MAESAKO	2008/8/1		7073/, 707323
国際会議 (proceedings あり)	Effectiveness of NIRS in Educational Research	Naoko OKAMOTO, Hideo EDA, Yasufumi KURODA, Takanori MAESAKO	2008/9/1		526/, 1-6

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
国際会議 (proceedings あり)	Measuring the Moment of Understanding while Solving Mathematical Puzzles	Hideo EDA, Yasufumi KURODA, Naoko OKAMOTO, Takanori MAESAKO	2008/9/1		530/ 1-6
国際会議 (proceedings あり)	Use of Multiple Tools in Dstance Learning: International Distance Learning Using "HyperMirror"	Akiko NANAZAWA, Taiichiro OKUBAYASHI, Spence ZAORSI, Katsusuke SHIGETA, Hideya MATSUKAWA, Yuko YOSHIMOTO, Ako IMAI, Takanori MAESAKO	2008/11/1		9/ 119-123
国際会議 (proceedings あり)	Measurement of brain activation difference during different mathematical tasks by near infrared spectroscopy	Naoko OKAMOTO, Yasufumi KURODA, Britton CHANCE, Shoko NIOKA, Hideo EDA, Takanori MAESAKO	2009/1/1		7174/ 71741M
国際会議 (proceedings あり)	Visualization of children's mathematics solving process using near infrared spectroscopic approach	Yasufumi KURODA, Naoko OKAMOTO, Britton CHANCE, Shoko NIOKA, Hideo EDA, Takanori MAESAKO	2009/1/1		7174/ 71741Z

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
国際会議 (proceedings なし)	How Can We Apply HyperMirror to Distance Learning?	Akiko NAKAZAWA, Taiichiro OKUBAYASHI, Spence ZAORSKI, Katsusuke SHIGETA, Ako IMAI, Yuko YOSHIMOTO, Hideya MATSUKAWA, Takanori MAESAKO	2008/8/1		
国際会議 (proceedings なし)	Japan-US Water Investigation Project and its Relative Issues	Taiichiro OKUBAYASHI, Akiko NAKAZAWA, Spence ZAORSKI, Katsusuke SHIGETA, Takanori MAESAKO	2008/8/1		
国際会議 (proceedings なし)	A Theoretical Framework of Ecosystem of Learner Development for Designing a Practical Ubiquitous Learning Environment	Hai ZHANG, Takanori MAESAKO	2008/8/1		
会議報告/口頭発表	「21世紀の学び」の枠組み—米国・Partnership for 21st century skills の活動より—	中澤明子,前迫孝憲	2008/9/1	講演論文集	33/ 500-501
会議報告/口頭発表	教員を対象とする防災・危機対応研修プログラム—米国 FEMA の取り組み—	奥林泰一郎,中澤明子,小久保力,上田明久,木村沙織,新川壯光,前迫孝憲	2008/9/1	講演論文集	33/ 502-503
会議報告/口頭発表	古典教育改善のための予備調査	秋長幸依,前迫孝憲	2008/10/1	講演論文集	24/ 259-260
会議報告/口頭発表	国際間の遠隔学習実践例—複数の日中間の実践から	劉威,前迫孝憲	2008/10/1	講演論文集	24/ 277-278
会議報告/口頭発表	Developing and Practice of a Ubiquitous Communication Support System in a Conference	Hai ZHANG, ZhuoHuan LI, Takanori MAESAKO	2008/10/1	講演論文集	24/ 917-918

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
会議報告/口頭発表	中国におけるICT活用授業プロジェクト「跨越」の実践大学による教師共同体の支援とシステムのインストラクショナルデザインを通して	張海,何克抗,前迫孝憲	2008/10/1	講演論文集	24/ 575-576
会議報告/口頭発表	非同期環境を中心とする交流学习におけるコミュニケーション支援の提案—Japan-USA Teen Talk Project を事例として—	奥林泰一郎,中澤明子,スペンス ゼオースキ,上田明久,新川壯光,前迫孝憲	2008/10/1	講演論文集	24/ 275-276
会議報告/口頭発表	ICTを活用した日本—タイ間の遠隔学習における特徴—多様な遠隔学習への「超鏡」の適用を目指して—	中澤明子,今井亜湖,吉本優子,奥林泰一郎,重田勝介,スペンス ゼオースキ,前迫孝憲,藤倉純子,池田裕美,武藤志真子,森川治	2008/10/1	講演論文集	24/ 109-112
会議報告/口頭発表	ハイパーミラーシステムを活用した遠隔カウンセリングによるストレス軽減の試み	橋本佐由理,森川治,前迫孝憲,橋本信幸	2008/11/1	講演予稿集	/, 384-385
解説・総説	巻頭言—日本版教育CIOへの期待	前迫孝憲	2009/2/1	教育システム情報学会誌	25/4, 359-360

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 15 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 1 件）、修士（主査 1 件、副査 0 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 1 名、前期課程 3 名、副指導教員：後期課程 0 名、前期課程 1 名）、学部生 20 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（旧外国語学部教職 140 名）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 件、学術論文 2 件、国際会議 3 件、会議報告 11 件、大学等の報告 1 件、解説・総説 件、書評 件、その他（招待講習 3 件）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	苧阪直行(編)「ワーキングメモリの脳内表現」第5章 ワーキングメモリにおける注意のフォーカスと抑制の脳内表現	苧阪満里子	2008/4/1	京都大学学術出版会	pp.77-102
学術論文	Functional asymmetry of superior parietal lobule for working memory in the elderly.	Otsuka,Y., Osaka,N., & Osaka,M.	2008/9/1	NeuroReport	No.19, 1355-1359
学術論文	漢字表記語の意味プライミングにおけるワーキングメモリの個人差—事象関連電位による検討—	小森三恵・苧阪満里子	2008/12/1	千里金蘭大学紀要	No.39, 99-107
会議報告/口頭発表	Neural aesthetics of beauty: An event related fMRI study.	N.Osaka, T.Ikeda, I. Rentchler, & M, Osaka.	2008/7/25	The 29th International Conference of Psychology	
会議報告/口頭発表	fMRI による視覚性ワーキングメモリの情報保持に関わる神経基盤の検討	源健宏・苧阪満里子・苧阪直行	2008/9/19	日本心理学会第 72 回大会	855
会議報告/口頭発表	ワーキングメモリ:基礎から臨床へ	室橋春光・苧阪直行・Torkel Klingberg・苧阪満里子・齊藤智	2008/9/20	日本心理学会第 72 回大会	S(9)
会議報告/口頭発表	色の記憶に対する熟達度の影響	池田尊司・苧阪満里子・苧阪直行	2008/9/20	日本心理学会第 72 回大会	654
会議報告/口頭発表	高齢者において感情情報がワーキングメモリに及ぼす影響—言語性ワーキングメモリ課題を用いた検討	勝原摩耶・大塚結喜・苧阪満里子・苧阪直行	2008/9/20	日本心理学会第 72 回大会	888

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
会議報告/口頭発表	自己を含む人物表象へのメタ的評価とその脳内神経基盤	矢追健・苧阪満里子・苧阪直行	2008/9/21	日本心理学会第72回大会	741
会議報告/口頭発表	言語性ワーキングメモリと訓練の関係—抑制機能の観点から—	木下侑里子・苧阪満里子	2008/11/9	関西心理学会第120回大会	46-46
会議報告/口頭発表	ワーキングメモリとスタイルシフト	遠藤香織・苧阪満里子	2008/11/9	関西心理学会第120回大会	45-45
会議報告/口頭発表	Individual differences of working memory capacity reflected as the different pattern of functional connectivity during visual working memory task.	Minamoto, T., Osaka, M., & Osaka, N.	2008/11/16	Society for Neuroscience	
会議報告/口頭発表	指示忘却による訓練がワーキングメモリに及ぼす影響	木下侑里子・苧阪満里子	2009/3/7	第6回日本ワーキングメモリ学会大会	4
会議報告/口頭発表	ワーキングメモリとスタイルシフト	遠藤香織・苧阪満里子	2009/3/7	第6回日本ワーキングメモリ学会大会	4

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 27 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 1 件、副査 0 件）、修士（主査 2 件、副査 1 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 4 名、前期課程 4 名、副指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名）、学部生 9 名、留学生 0 名、研究生 1 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 6 件、学術論文 2 件、国際会議 2 件、会議報告 6 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 10 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	第 4 部第 3 章 文化としての災害ボランティア活動 岩崎信彦ほか(編)「災害文化と災害教育」	渥美公秀	2008/1	昭和堂	pp. 217-237
著書	Historical Conflict and Resolution between Japan and China: Developing and Applying a Narrative Theory of History and Identity. Meaning in Action.	Liu, J., & Atsumi, T	2008/1	Springer Japan.	pp. 327-344
著書	第 5 章即興としての災害救援 山住勝弘・Engestrom Y.(編) ノットワーキングー結び合う人間活動の創造へー	渥美公秀	2008/2	新曜社	pp. 207-230
著書	第 3 章 災害ボランティア再考 菅磨志保・山下祐介・渥美公秀(編)シリーズ 災害と社会 5 災害ボランティア論入門	渥美公秀	2008/12	弘文堂	pp.83-105
著書	第 8 章第 2 節 剥き出しの被災者と向き合うこと 菅磨志保・山下祐介・渥美公秀(編)シリーズ 災害と社会 5 災害ボランティア論入門	渥美公秀	2008/12	弘文堂	pp.237-241
学術論文	服喪から復興へー新潟県中越地震におけるコミュニティ再生への道ー	高玉潔・渥美公秀	2008/3	大阪大学人間科学研究科紀要	34, 99-110
学術論文	減災コミュニケーションデザインの背景と事例	渥美公秀	2008/8	日本リスク研究学会誌	18(1), 45-51

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
国際会議 (Proceedings あり)	DR not Called “DR”. Second Annual workshop on Disaster Reduction Hyperbase-Asian Application	Atsumi,T.	2008/2	Beijing Normal University, China	
国際会議 (Proceedings あり)	Changing The Constructed Social Representations Through Designing and Practicing.	Kobayashi,H. & Atsumi,T.	2008/7	The 9 th Internatinal Conference on Social Representations, Bali, Indonesia	
国際会議 (Proceedings あり)	A Community Caf�:Its Meaning for people.	Horie, N. & Atsumi,T.	2008/7	The 9 th Internatinal Conference on Social Representations, Bali, Indonesia	
国際会議 (Proceedings あり)	Social Representation of Disaster Volunteering inJapanese Society: Quantitive research on Newspaper Articles.	Suwa, K. & Atsumi,T & Seki,Y.	2008/7	The 9 th Internatinal Conference on Social Representations, Bali, Indonesia	
国際会議 (Proceedings あり)	Creative processes of community revitalization from narrative approach: A case study from Chuetsu earthquake.	Miyamoto, T. & Atsumi, T.	2008/7	The 24th International congress of psychology, Berlin, Germany	
国際会議 (Proceedings あり)	A trial to change the social representations of the real community.	Kobayashi, H. & Atsumi, T.	2008/7	The 24th International congress of psychology, Berlin, Germany	
国際会議 (Proceedings あり)	The present conditions of the dysuria patients in Japan.	Matsuda, H. & Atsumi, T.	2008/7	The 24th International congress of psychology, Berlin, Germany	
国際会議 (Proceedings あり)	Disabled students’ experiences of higher education in Japan . The 24th International congress of psychology	Matsubara, T. & Atsumi, T.	2008/7	The 24th International congress of psychology, Berlin, Germany	

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
国際会議 (Proceedings なし)	Post Disaster Governance in the aftermath of Sichuan Earthquake ub China.	Atsumi, T.	2008/9	8 th IIASA-DPRI Forum on Integrated Disaster Risk Management “Integration And Multi-Disciplinarity” Villa Porro Pirelli, Induno Olona, Varesa, Italy	
会議報告/口頭発表	復興デザイン研究会の役割 災害復興の役割	渥美公秀	2008/1	日本災害復興学会発足記念大会 関西学院大学	
会議報告/口頭発表	Cross Fire for the Future.	渥美公秀・永田素彦(企画)	2008/3	フィールドワーク社会心理学会 蔵王	
会議報告/口頭発表	災害研究再訪 何がおもしろくないのか、どうすればおもしろくなるのか	渥美公秀、矢守克也、栗田暢之	2008/6	日本グループ・ダイナミクス学会第55回大会ワークショップ(企画・司会・話題提供)	
会議報告/口頭発表	素人とデザイナーの協働によるデザイン活動の実践	小林仁・渥美公秀・花村周寛・本間直樹	2008/6	日本グループ・ダイナミクス学会第55回大会 広島大学	
会議報告/口頭発表	Urinary management in elderly people—Sociological study on medical care, primarily urinary care	Matsuda, H. & Atsumi, T.	2008/6	日本グループ・ダイナミクス学会第55回大会 広島大学	
会議報告/口頭発表	‘Independence’ and ‘Co-existence’ as components of social reality.	Aoki, C. & Atsumi, T.	2008/6	日本グループ・ダイナミクス学会第55回大会 広島大学	
会議報告/口頭発表	Study of the collaborative practices between welfare institution and community.	Horie, N. & Atsumi, T	2008/6	日本グループ・ダイナミクス学会第55回大会 広島大学	
会議報告/口頭発表	Types and balance of outside supporters’ role— Action research for Niigata Chuetsu earthquake—	Miyamoto, T., Atsumi, T. & Abe, T.	2008/6	日本グループ・ダイナミクス学会第55回大会 広島大学	

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
会議報告/口頭発表	Japanese representation of the global history : Multi-method approach.	Suwa, K., Atsumi, T., Kobayasi, H., Miyamoto, T. & Seki, Y.	2008/7	日本グループ・ダイナミックス学会第55回大会 広島大学	
会議報告/口頭発表	災害救援における“接触”に関する考察 新潟県中越沖地震における足湯・手紙・寄り添い	渥美公秀	2008/9	日本心理学会 第72回大会	
会議報告/口頭発表	中越地震における中山間地の集落復興過程 (3)復興過程における被災地交流	渥美公秀・関嘉寛	2008/9	第27回日本自然災害学会 九州大学	
会議報告/口頭発表	被災者自身による復興過程のセンスメイキングについて	宮本匠・渥美公秀	2008/9	第27回日本自然災害学会 九州大学	
会議報告/口頭発表	中越地震における中山間地の集落復興過程 (4)復興における住民の「参加」	関嘉寛・渥美公秀	2008/9	第27回日本自然災害学会 九州大学	
会議報告/口頭発表	中国・四川大地震に対する社会的反応(第1報)	矢守克也・渥美公秀・鈴木勇・近藤誠司・淳于思岸	2008/9	第27回日本自然災害学会 九州大学	
会議報告/口頭発表	災害ボランティアの最前線を見据えた防災計画	渥美公秀	2008/10	第3回 防災計画研究発表会 京都大学	
会議報告/口頭発表	インターローカリティについて考えるー複数の現場を架橋する質的研究ー	渥美公秀(話題提供)、矢守克也・伊藤哲司(企画・話題提供)、南博文(指定討論)	2008/11	日本質的心理学会 第5回大会 筑波大学	
会議報告/口頭発表	中国・四川大地震に対する社会的反応(第2報)	渥美公秀・矢守克也・鈴木勇・近藤誠司・淳于思岸	2008/11	日本災害復興学会 2008年度大会	
会議報告/口頭発表	減災コミュニケーションにおけるワークショップ	関嘉寛・渥美公秀・菅磨志保	2008/11	日本災害復興学会 2008年度大会	
会議報告/口頭発表	災害体験者手記のディスコース分析	高森順子・渥美公秀	2008/11	日本災害復興学会 2008年度大会	
会議報告/口頭発表	創発する復興～新潟県中越地震における川口町の復興過程について～	宮本匠・渥美公秀・阿部巧・星野晃男・水落優	2008/11	日本災害復興学会 2008年度大会	
解説・総説	復興・防災にかかわりを	渥美公秀	2008/3	日本経済研究センター会報	(3) 965, 52-55
解説・総説	災害時におけるボランティア活動	渥美公秀	2008/9	地方議会人	39-4, 24-28

分類(著書・学术论文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
解説・総説	「ちょっと知ってる」を「ほんとに知ってる」に	渥美公秀	2008/6～ 2008/9	ボランティア情報	連載 4 回
解説・総説	知識から知恵へ	渥美公秀	2008/11～ 2009/3	ボランティア情報	連載 5 回

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 2 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 0 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名、副指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名）、学部生 0 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 2 件、国際会議 0 件、会議報告 4 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（WS 話題提供 1 件，研究会発表 1 件）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
学術論文	上司との関係評価, コーピングがストレス反応に及ぼす影響—社会人と学生アルバイト従業員の比較—	松本友一郎・釘原直樹	2008/6/1	心理学研究	第 79 巻 第 2 号 pp. 166-171
学術論文	看護師の上司-部下関係に対する評価, コーピングとストレス反応の関連	松本友一郎, 釘原直樹	2009/3/1	実験社会心理学研究	第 48 巻 第 2 号 pp.167-173
会議報告/口頭発表	看護師の人間関係の認知と精神的健康に関する質的検討(2)—退職または異動経験者を対象とした面接調査—	松本友一郎・臼井伸之介	2008/8/1	産業・組織心理学会第 24 回大会発表論文集	pp. 97-100
会議報告/口頭発表	看護業務における違反の心理的生起要因に関する調査(1)—時間的・社会的圧力の影響—	安達悠子, 臼井伸之介, 松本友一郎	2008/9/1	日本応用心理学会第 75 回大会発表論文集	14
会議報告/口頭発表	看護業務における違反の心理的生起要因に関する調査(2)—リスク・ベネフィット評価の観点から—	安達悠子, 臼井伸之介, 松本友一郎, 吉田乃里子, 青木喜子	2008/9/1	日本心理学会第 72 回大会発表論文集	1394
会議報告/口頭発表	看護業務における違反の心理的生起要因に関する調査(3)—属性に関する検討—	安達悠子, 臼井伸之介, 松本友一郎, 青木喜子	2008/12/1	平成 20 年度日本人間工学会関西支部大会講演論文集	41-44
その他	フィールド研究におけるデータ収集・介入困難—「研究・介入プロセス」への示唆—(ワークショップ)	企画・司会: 池田 満, 話題提供: 岡崎 琴恵・松本 友一郎・駒田 優子, 指定討論: 伊藤 武彦	2008/9/1	日本応用心理学会第 75 回大会発表論文集	8

所属： 行動学系 氏名： 森川 和則

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 21 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 1 件）、修士（主査 0 件、副査 1 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 1 名、副指導教員：後期課程 1 名、前期課程 2 名）、学部生 16 名、留学生 1 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 0 件、国際会議 1 件、会議報告 1 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
会議報告/口頭発表	Is the face distortion aftereffect limited to faces?	Kazunori MORIKAWA	2008/7/1		
会議報告/口頭発表	物体の歪みに対する高次視覚順応の時空間特性	森川和則	2008/9/1		

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 0 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 0 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名、副指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名）、学部生 0 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 2 件、国際会議 2 件、会議報告 1 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 1 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
学術論文	Smiling emphasizes perceived distinctiveness of faces.	Kawamura, S., & Komori, M.	2008/6/1	Perceptual and Motor Skills	107,119-120
学術論文	Smile reduces masculinity: a discussion by principal component analysis for face images.	Kawamura, S., Komori, M., Miyamoto, Y.	2008/11/1	Perception	
国際会議 (proceedings あり)	Averageness or symmetry: Which is crucial for facial attractiveness?	Komori, M., Kawamura, S., Ishihara, S., Noguchi, H., Tanaka, M., & Kawabata, K.	2008/7/1	Proceedings of the 6th International Conference on Cognitive Science	
国際会議 (proceedings あり)	Photographs of mountains taken from a higher altitude appear to make them look taller than photographs of mountains taken from a lower altitude.	Kawamura, S., Hashimoto, S., & Miyamoto, Y.	2008/8/1	Proceedings of the 24th Annual Meeting of the International Society for Psychophysics	
会議報告/口頭発表	ボカシによる空間表現(ワークショップ話題提供)	川村智・小森政嗣	2008/9/1	日本心理学会 第 72 回大会論文集	
解説・総説	Memory advantage of experts not based on chunking	Kawamura, S., & Morikawa, K.	2008/11/1	Annual Report of Osaka University - Academic Achievement 2007-2008	

分類(著書・学术论文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
その他	写真・絵画における三次元空間の表現(1)(ワークショップ企画)	川村智	2008/9/1	日本心理学会 第72回大会論文集	

(4) 受賞・特許・作品、他

受賞年月	受賞者名	賞名	主催団体名
2008/6/1	Kawamura, S., & Morikawa, K.	100 Papers Selection, Annual Report of Osaka University -Academic Achievement 2007-2008	Osaka University

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 23 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 2 件、副査 1 件）、修士（主査 1 件、副査 0 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 1 名、前期課程 2 名、副指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名）、学部生 4 名、留学生 0 名、研究生 1 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 6 件、国際会議 3 件、会議報告 10 件、大学等の報告 1 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
学術論文	高齢者の視機能と視覚的注意	石松一真、三浦利章	2008/9/1	光学	37(9), 461-468
国際会議 (proceedings あり)	Effect of the color configurations of cue and stimuli on depth visual attention of drivers.	Xia,R., Fukushima,M., Doi,S., Kimura,T., and Miura,T.	2008/5/1	Proceedings of the SCME2008 Second International Symposium on Complex Medical Engineering	
国際会議 (proceedings あり)	Effects of action on asymmetries of attentional allocation across the vertical visual field.	Naito, H., Kimura, T., and Miura, T.	2008/8/1	Perception	37, 54.
会議報告/口頭発表	行為実行時の垂直方向における注意配分 -手がかり法による検討-	内藤宏・三浦利章・木村貴彦	2008/9/1	日本心理学会第72回大会発表論文集	
会議報告/口頭発表	三次元空間における動作実行時の注意配分	内藤宏・木村貴彦・三浦利章	2008/11/1	関西心理学会第120回大会発表論文集	
会議報告/口頭発表	刺激の感情価が Repetition Blindness に及ぼす影響: 漢字を用いての検討	引田伸昌・木村貴彦・篠原一光・三浦利章	2008/11/1	関西心理学会第120回大会発表論文集	

(4) 受賞・特許・作品、他

受賞年月	受賞者名	賞名	主催団体名
2008/12/1	高原美和, 三浦利章, 篠原一光, 木村貴彦	日本基礎心理学会優秀論文賞	日本基礎心理学会

受賞年月	受賞者名	賞名	主催団体名
2008/11/1	引田伸昌・木村貴彦・篠原一光・三浦利章	第120回関西心理学会研究奨励賞	関西心理学会
2008/11/1	駒田悠一・篠原一光・木村貴彦・三浦利章	第120回関西心理学会研究奨励賞	関西心理学会

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 18 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 2 件）、修士（主査 0 件、副査 3 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名、副指導教員：後期課程 3 名、前期課程 4 名）、学部生 3 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 2 件、国際会議 0 件、会議報告 8 件、大学等の報告 件、解説・総説 件、書評 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
学術論文	指差喚呼が視覚的注意の定位に及ぼす影響	篠原一光,森本克彦,久保田敏裕	2009/2/1	人間工学	Vol.45, 54-57
会議報告/口頭発表	運転者特性と運転行動の自己報告の関係	駒田悠一・篠原一光・木村貴彦・三浦利章	2008/6/1	人間工学	44(特別号), 164-165
会議報告/口頭発表	指差喚呼と視覚的注意の定位	篠原一光,森本克彦,久保田敏裕	2008/9/1	日本心理学会第71回大会発表論文集	1396
会議報告/口頭発表	違反行動誘発課題における課題遂行コスト強調の効果	和田一成,臼井伸之介,篠原一光,神田幸治,中村隆宏,太刀掛俊之,山田尚子,村上幸史	2008/9/1	日本心理学会第72回大会発表論文集	
会議報告/口頭発表	タイムプレッシャーが認知的に非常に高い場面において感情に与える影響	曾根英美子,篠原一光,木村貴彦,三浦利章	2008/9/1	日本心理学会第72回大会発表論文集	
会議報告/口頭発表	注意エラー経験による態度変容効果測定を試み	神田幸治,大友みゆき,宇野真由,臼井伸之介,篠原一光,太刀掛俊之,中村隆宏,山田尚子,和田一成,村上幸史	2008/9/1	日本心理学会第72回大会発表論文集	
会議報告/口頭発表	模擬道路上での飛び出し検出時の注視特性と注意力の関係	駒田悠一・篠原一光・木村貴彦・三浦利章	2008/11/1	関西心理学会第120回大会発表論文集	41

分類(著書 ・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元 ／掲載誌	巻号頁
会議報告/口頭 発表	運動技能と眼球運動ーテニス を実験課題としてー	宮本晃希・三 浦利章・篠原 一光・木村貴 彦	2008/11/1	関西心理学会 第120回大会 発表論文集	40

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 1 件、副査 0 件）、修士（主査 6 件、副査 1 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 2 名、前期課程 9 名、副指導教員：
 後期課程 1 名、前期課程 2 名）、学部生 6 名、留学生 0 名、研究生 1 名、
 その他（学振特別研究員 PD 2 名 SPD 1 名）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 2 件、学術論文 9 件、国際会議 14 件、会議報告 20 件、
 大学等の報告 0 件、解説・総説 9 件、書評 0 件、その他（学会等特別講演 8）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	関係とコミュニケーション	大坊郁夫・永瀬治郎編	2009/1/1	ひつじ書房	1-35
学術論文	対集団協調作業に関する基盤的実証研究－対面場面における相互作用形態と課題解決との関係－	大坊郁夫・松田昌史・磯友輝子	2008/5/1	電子情報通信学会技術研究報告	108 巻 26 号 7-12.
学術論文	恋人関係における自己呈示は自己確証的か自己高揚的か	谷口淳一・大坊郁夫	2008/8/1	社会心理学研究	24, 11-22.
学術論文	上司のリーダーシップ機能、作業チーム内の葛藤、および対処行動の影響過程に関する検討	村山 綾 ・ 大坊郁夫	2008/9/1	応用心理学研究	33, Pp. 120-127.
国際会議 (proceedings あり)	Effects of Nonverbal Communication in Social Skills Training	Ikuo Daibo, Yukiko Iso, Junnichi Taniguchi & Hiroko Kamide	2008/7/1	International Journal of Psychology	Vol.43(3/4) p.449

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 19 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 3 件）、修士（主査 1 件、副査 7 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 1 名、前期課程 2 名、副指導教員：
 後期課程 2 名、前期課程 9 名）、学部生 12 名、留学生 0 名、研究生 1 名、
 その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 3 件、国際会議 1 件、会議報告 7 件、
 大学等の報告 1 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ 1 ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	テロリズムを理解する -社会心理学からのアプローチ-	釘原直樹(監訳)	2008/4/1	ナカニシヤ出版	
国際会議 (proceedings あり)	Recency inflation effect of rare events on frequency judgment.	Naoki Kugihara	2008/5/1	Association for psychological Sciences Annual Convention (APS '07)	Abstract Book P346
会議報告/口頭発表	マスコミが対象とするスケープゴートの変遷(10)感染症の流行を例として	村上幸史・阿形亜子・植村善太郎・釘原直樹	2008/6/1	日本グループ・ダイナミックス学会第 55 回大会発表論文集	48-49
会議報告/口頭発表	事件の特質によるスケープゴート・プロセスの違い	植村善太郎・村上幸史・釘原直樹	2008/6/1	日本グループ・ダイナミックス学会第 55 回大会発表論文集	50-51
会議報告/口頭発表	マスコミが対象とするスケープゴートの変遷(9)JR 福知山線事故に関する非難記事とその想起量のズレ	釘原直樹・植村善太郎・村上幸史	2008/9/1	日本心理学会第 72 回大会論文集	173
会議報告/口頭発表	マスコミが対象とするスケープゴートの変遷(8)非難の主体性に着目した検討	植村善太郎・村上幸史・釘原直樹	2008/9/1	日本心理学会第 72 回大会論文集	172
会議報告/口頭発表	マスコミが対象とするスケープゴートの変遷(12)記憶バイアスと変遷印象との関連	釘原直樹・植村善太郎・村上幸史・阿形亜子	2008/11/1	日本社会心理学会第 49 回大会発表論文集	36-37
会議報告/口頭発表	マスコミによる非難対象の変遷過程の解明	釘原直樹・植村善太郎・村上幸史	2008/11/1	日本社会心理学会第 49 回大会論文集	23

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
会議報告/口頭発表	マスコミが対象とするスケープゴートの変遷(11)テキストマイニングソフトを用いた簡易分析の試み	植村善太郎・村上幸史・阿形亜子・釘原直樹	2008/11/1	日本社会心理学会第49回大会発表論文集	34-35
解説・総説	マスコミのスケープゴートイニング	釘原直樹	2008/6/1	阪大ニューズレター	Vol 40, P12.

所属： 行動学系 氏名： 毛 新華

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 0 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 0 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名、副指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名）、学部生 0 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 0 件、国際会議 2 件、会議報告 2 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 16 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 2 件）、修士（主査 0 件、副査 5 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名、副指導教員：後期課程 4 名、前期課程 6 名）、学部生 6 名、留学生 名、研究生 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 2 件、学術論文 7 件、国際会議 2 件、会議報告 20 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	情報福祉の基礎知識 —障害者・高齢者が使いやすいインタフェース—	情報福祉の基礎研究会	2008/4/1	ジアース教育新社	
著書	ヒトのエイジングの認知心理学における構成概念としての処理速度の役割	藤田綾子・山本浩市	2008/7/1	北大路書店	131-149
学術論文	Personality and all-cause mortality among older adults dwelling in a Japanese community: a five-year population-based prospective cohort study.	H. Iwasa, Y. Masui, Y. Gondo, H. Inagaki, C. Kawaai, T. Suzuki.	2008/4/1	Am J Geriatr Psychiatry	16(5),399-405
学術論文	Cognitive performance as a predictor of functional decline among the non-disabled elderly dwelling in a Japanese community: a 4-year population-based prospective cohort study.	H. Iwasa, Y. Gondo, Y. Yoshida, J. Kwon, H. Inagaki, C. Kawaai, Y. Masui, H. Kim, H. Yoshida, T. Suzuki	2008/7/1	Archives of gerontology and geriatrics	47(1):139-49.

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
学術論文	Adipose endocrine function, insulin-like growth factor-1 axis, and exceptional survival beyond 100 years of age.	Arai Y, Takayama M, Gondo Y, Inagaki H, Yamamura K, Nakazawa S, Kojima T, Ebihara Y, Shimizu K, Masui Y, Kitagawa K, Takebayashi T, Hirose N.	2008/11/1		63(11) 1209-1218
学術論文	Relationship between physical and cognitive function, blood pressure and serum lipid concentration in centenarians	Shimizu K, Hirose Takayama M, N, Arai Y, Gondo Y, Wakida Y, Ebihara Y, Yamamura K, Nakazawa S, Inagaki H, Masui Y, Kitagawa K.	2008/12/1	Geriatrics & Gerontology International	8(4) 300-302
学術論文	軽度アルツハイマー型認知症例に対するMIS (MemoryImpairmentScreen)の適用可能性	伊集院睦雄・本間昭・川合嘉子・今井幸充・権藤恭之	2008/12/1	老年精神医学雑誌	19(12)1349-1356
学術論文	老年期における死に対する態度尺度(DAP)短縮版の信頼性ならびに妥当性	針金まゆみ・河合千恵子・増井幸恵・岩佐一・稲垣宏樹・権藤恭之・小川まどか・鈴木隆雄	2009/1/1	厚生の指標	56(1)33-38
学術論文	Personality and participation in mass health checkups among Japanese community-dwelling elderly	H Iwasa, Y Masui, Y Gondo, Y Yoshida, H Inagaki, C Kawaai, H Kim, H Yoshida, T Suzuki	2009/2/1	Journal of Psychosomatic Research	66(2)155-159

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 5 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 件、副査 件）、修士（主査 件、副査 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 名、前期課程 名、副指導教員：後期課程 名、前期課程 名）、学部生 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 2 件、学術論文 18 件、国際会議 3 件、会議報告 0 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 2 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
著書	臨床と研究に役立つ緩和ケアのアセスメント・ツール(緩和ケア10月号増刷)	恒藤暁, 宮下光令, 河正子, 平井啓, 他	2008/10/1	青海社	48-52, 76-78, 146-148
著書	医療心理学の新展開	鈴木伸一, 平井啓, 他	2008/11/1	北大路書房	20-32,
学術論文	Psychological and behavioral mechanisms influencing the use of complementary and alternative medicine (CAM) in cancer patients.	Hirai K, et al	2008/1/1	Ann Oncol	Vol.19, 49-55
学術論文(総説)	がん患者に対する問題解決療法	平井啓, 他	2008/1/1	緩和医療学	10, 37-42
学術論文	Barriers to referral to inpatient palliative care units in Japan: a qualitative survey with content analysis.	Miyashita M, Hirai K, Morita T, et al	2008/3/1	Support Care Cancer	16(3) 217-222
学術論文	Perceptions of specialized inpatient palliative care: a population-based survey in Japan.	Sanjo M, Morita T, Hirai K, et al	2008/3/1	J Pain Symptom Manage	35(3) 275-282
学術論文	がんの補完代替医療における心理学的研究の役割	平井啓, 他	2008/3/1	ストレス科学	22, 216-223
学術論文	大学生の睡眠習慣に対する介入とセルフ・エフィカシーの般化についての検討	原田和弘, 平井啓, 他	2008/3/1	行動医学研究	14, 21-29

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
学術論文	Factors contributing to evaluation of a good death from the bereaved family member's perspective.	Miyashita M, Morita T, Hirai K, et al	2008/6/1	Psychooncology	17(6) 612-620
学術論文	Evaluation of end-of-life cancer care from the perspective of bereaved family members: the Japanese experience.	Miyashita M, Morita T, Hirai K	2008/8/1	J Clin Oncol	26(23) 3845-3852
学術論文	Measuring the regret of bereaved family members regarding the decision to admit cancer patients to palliative care units.	Shiozaki M, Hirai K, et al	2008/9/1	Psychooncology	17(9) 926-931
学術論文	The relationship between health-related quality of life and social networks among Japanese family caregivers for people with disabilities.	Arai H, Hirai K, et al	2008/10/1	BioPsychoSocial Medicine	2:17
学術論文	Palliative Care in Japan: Current Status and a Nationwide Challenge to Improve Palliative Care by the Cancer Control Act and the Outreach Palliative Care Trial of Integrated Regional Model (OPTIM) Study.	Morita, T., Miyashita, M., Hirai, K., et al.	2008/10/1	Am J Hosp Palliat Care	online ahead of print
学術論文	Caregiving Consequences Inventory: a measure for evaluating caregiving consequences from the bereaved family member's perspective.	Sanjo M, Morita T, Hirai K, et al	2008/11/1	Psycho-oncology	
学術論文	Discrimination between worry and anxiety among cancer patients: development of a brief cancer-related worry inventory	Hirai K, et al	2008/12/1	Psychooncology	Vol.17, 1172-79
学術論文	Problem-Solving Therapy for Psychological Distress in Japanese Cancer Patients: Preliminary Clinical Experience from Psychiatric Consultations.	Akechi T, Hirai, K, et al	2008/12/1	Jpn J Clin Oncol	38 867-870
学術論文	Self-efficacy, psychological adjustment and decisional-balance regarding decision making for outpatient chemotherapy in Japanese advanced lung cancer.	Hirai K, et al	2009/2/1	Psychology and Health	24(2) 149-160

分類(著書 ・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元 ／掲載誌	巻号頁
学術論文	The Relationship between Regular Exercise and Social Capital among Japanese Community Residents.	Arai H, Nagatsuka M, and Hirai K	2009/3/20	International Journal of Sport and Health Science	online ahead of print

所属： 行動学系 氏名： 青野 正二

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 17 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 1 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名、副指導教員：
後期課程 0 名、前期課程 0 名）、学部生 3 名、留学生 0 名、研究生 0 名、
その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 0 件、国際会議 0 件、会議報告 1 件、
大学等の報告 1 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
会議報告/口頭発表	音環境マネジメントのための知識創生	松井孝典, 津田智行, 青野正二, 桑野園子, 森長誠	2008/9/1	日本音響学会 秋季研究発表 会講演論文集	
大学・研究所等の報告	視聴覚要因を考慮した音環境評価のモデル化	青野正二	2009/3/1	科学研究費補助金研究成果報告書	

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 28 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 1 件、副査 0 件）、修士（主査 1 件、副査 4 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 3 名、前期課程 1 名、副指導教員：後期課程 3 名、前期課程 0 名）、学部生 20 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 5 件、国際会議 1 件、会議報告 13 件、大学等の報告 1 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
学術論文	船舶の衝突回避操縦の経験による差異について	渚 真輝・臼井伸之介・藤本昌志・岩崎裕行	2008/8/1	電子情報通信学会技術研究報告(安全性)	Vol.108, No.186, 19-22
学術論文	機器配列空間内の実際移動における Alignment Effect -プラント盤面操作の模擬課題を用いて-	太刀掛俊之・臼井伸之介・篠原一光・松井裕子・三浦利章	2008/9/1	応用心理学研究	Vol.33, No.2, 94-102
学術論文	保持船の動作判断時機について	渚 真輝・藤本昌志・臼井伸之介・岩崎裕行	2008/10/1	日本航海学会論文集	Vol.119, 137-143
学術論文	過大評価されやすい運転技能要素とドライバー特性の関連	中井 宏・臼井伸之介	2008/10/1	交通科学	Vol.39, No.1, 53-59.
学術論文	事故とヒューマンエラーの心理学	臼井伸之介	2008/12/1	自動車技術	Vol.62(12), 4-9.
国際会議 (proceedings なし)	A study on the influence of self-assessed driving skills upon driving at T-shaped intersection	Hiroshi NAKAI & Shinnosuke USUI	2008/9/1	4th International Conference on Traffic & Transport Psychology	Abstract Book, P30
会議報告/口頭発表	過大評価されやすい運転技能要素の検証 - 自己評価と指導員評価の比較から-	中井宏、臼井伸之介、藤井秀朗 谷川 幸男	2008/6/1	日本交通心理学会第 73 回大会発表論文集	49-52
会議報告/口頭発表	看護師の人間関係の認知と精神的健康に関する質的検討 (2) -退職または異動経験者を対象とした面接調査-	松本友一郎・臼井伸之介	2008/8/1	産業・組織心理学会第 24 回大会発表論文集	97-100

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
会議報告/口頭発表	看護業務における違反の心理的生起要因に関する調査(1)―時間的・社会的圧力の影響	安達悠子、臼井伸之介、松本友一郎	2008/9/1	日本応用心理学会第75回大会発表論文集	14
会議報告/口頭発表	運転技能の過大評価傾向が教習所場内での走行課題に及ぼす影響 ―自己評価と指導員評価の差を用いて―	中井宏、臼井伸之介	2008/9/1	日本応用心理学会第75回大会発表論文集	19
会議報告/口頭発表	看護業務における違反の心理的生起要因に関する調査(2)―リスク・ベネフィット評価の観点から―	安達悠子、臼井伸之介、松本友一郎・吉田乃理子・青木喜子	2008/9/1	日本心理学会第72回大会発表論文集	1394
会議報告/口頭発表	注意エラー経験による態度変容効果測定を試み	神田幸治・大友みゆき・宇野真由・臼井伸之介・篠原一光・太刀掛俊之・中村隆宏・山田尚子・和田一成・村上幸史	2008/9/1	日本心理学会第72回大会発表論文集	1392
会議報告/口頭発表	鉄道無線に対する注意特性―鉄道運転士と大学生の比較―	上田真由子・内藤久士・臼井伸之介	2008/11/1	関西心理学会第120回大会発表論文集	42
会議報告/口頭発表	看護業務における違反の心理的生起要因に関する調査(3)―属性に関する検討―	安達悠子・臼井伸之介・松本友一郎	2008/12/1	平成20年度日本人間工学会関西支部大会講演論文集	41-44
会議報告/口頭発表	許容する船間距離の経験による差異について	瀧 真輝・臼井伸之介	2008/12/1	平成20年度日本人間工学会関西支部大会講演論文集	45-48
会議報告/口頭発表	鉄道無線に対する自己関連性―鉄道運転士と大学生の比較―	上田真由子・内藤久士・臼井伸之介	2008/12/1	平成20年度日本人間工学会関西支部大会講演論文集	159-162
会議報告/口頭発表	スネアドラムのタイミングが音楽聴取時の気分や曲の印象に及ぼす影響	岸田 好生・臼井伸之介	2008/12/1	平成20年度日本人間工学会関西支部大会講演論文集	175-178
大学・研究所等の報告	ヒューマンエラーと違反行動の発生メカニズムに関する基礎的研究	臼井伸之介・太刀掛俊之・飯田昌幸・内藤久士・上田真由子	2008/7/1	大阪大学大学院人間科学研究科・西日本旅客鉄道株式会社安全研究所共同研究研究成果報告書	1-142

(4) 受賞・特許・作品、他

受賞年月	受賞者名	賞名	主催団体名
2008/9/1	中井宏、臼井伸之介	日本応用心理学会学会賞(論文部門)	日本応用心理学会

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 16 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 2 件、副査 4 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 2 名、前期課程 3 名、副指導教員：後期課程 1 名、前期課程 2 名）、学部生 8 名、留学生 名、研究生 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 件、学術論文 1 件、国際会議 1 件、会議報告 2 件、大学等の報告 2 件、解説・総説 件、書評 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
学術論文	Gaze following among toddlers	Kishimoto, T., Shizawa, Y., Yasuda, J., Hinobayashi, T., & Minami, T.	2008/4/1		31, 280-286.
国際会議 (proceedings なし)	Sibling numbers and age at menarche.	Hinobayashi, T., Minami, T., Akai, S., Yasuda, J., Shizawa, Y., Itoigawa, N. & Yamada, K.	2008/7/1	International Journal of Psychology	43-3,495.
会議報告/口頭発表	発達加速現象の研究・その22 -健康習慣と性成熟-	日野林俊彦・赤井誠生・安田純・志澤康弘・新居佳子・山田一憲・南 徹弘	2008/9/1	日本心理学会第72回大会発表論文集	1233
会議報告/口頭発表	一人っ子の女子・児童生徒の早熟傾向について	日野林俊彦、安田 純、山田一憲、南 徹弘、糸魚川直祐	2009/3/1	日本発達心理学会第 20 回大会論文集	
大学・研究所等の報告	1歳齢保育園児の指さし行動に及ぼす保育士との近接の影響	岸本 健・日野林俊彦	2009/3/1	人間科学研究科紀要	35, 135-171
その他	発達加速と思春期変化	日野林俊彦	2009/3/1	阪大ニューズレター	43

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 6 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 1 件）、修士（主査 0 件、副査 2 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名、副指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名）、学部生 0 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 0 件、国際会議 1 件、会議報告 6 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
国際会議 (proceedings なし)	Prevalence and prediction of mild developmental disorders for extremely low-birthweight children at school age in Japan.	Kanazawa, T., Fujimura, M., Kitajima, H., Itoigawa, N., & Minami, T.	2008/5/1	Abstracts of Pediatric Academic Societies and Asian Society for Pediatric Research 2008 joint Meeting, Hawaii, USA.	
会議報告/口頭発表	学齢期における超低出生体重児の精神発達予後 ～広汎性発達障害と行動問題・自己意識との関係～	金澤忠博・安田純・北村真知子・糸魚川直祐・日野林俊彦・南 徹弘・北島博之・藤村正哲	2008/6/1	第 21 回ハイリスク児フォローアップ研究会抄録集	
会議報告/口頭発表	学齢期における超低出生体重児の心理・行動 その 52. 自閉症スペクトラム障害と自己意識	金澤忠博・安田純・北村真知子・南 徹弘・藤村正哲	2008/9/1	日本心理学会 第 72 回大会発表論文集	1189
会議報告/口頭発表	学齢期における超低出生体重児の心理・行動 その 53. MR 児と LD 児の HOME からみた家庭環境	鎌田次郎・金澤忠博・日野林俊彦・南 徹弘	2008/9/1	日本心理学会 第 72 回大会発表論文集	1190
会議報告/口頭発表	学齢期における超低出生体重児の心理・行動 その 54. 気質の変化と心理検査の関連	43. 安田 純・金澤忠博・北村真知子・南 徹弘	2008/9/1	日本心理学会 第 72 回大会発表論文集	1191
会議報告/口頭発表	学齢期における超低出生体重児の心理・行動 その 55. 動的家族画の分析	北村真知子・金澤忠博・安田純・南 徹弘	2008/9/1	日本心理学会 第 72 回大会発表論文集	1192

分類(著書 ・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元 ／掲載誌	巻号頁
会議報告/口頭 発表	超低出生体重児の学齢期にお ける愛着スタイル	金澤忠博・安田 純・糸魚川直 祐・南 徹弘・ 日野林俊彦・藤 村正哲・北島博 之	2009/3/1	日本発達心理 学会第20回大 会論文集	154

所属： 行動学系 氏名： 志村 剛

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 22 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 0 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 1 名、前期課程 0 名、副指導教員：
後期課程 1 名、前期課程 0 名）、学部生 8 名、留学生 0 名、研究生 0 名、
その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 4 件、国際会議 1 件、会議報告 6 件、
大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ 共同翻訳 1 件 ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
著書	エイジング心理学ハンドブック	クレイマー AF, ファビアニ M, コルコム SJ	2008/7/1	北大路書房	43-59
学術論文	味覚嫌悪学習獲得による嗜好性変化における腹側淡蒼球μオピオイド受容体の役割	乾 賢, 山本隆, 志村 剛	2008/12/1	日本味と匂学会誌	15: 333-336

所属： 行動学系 氏名： 八十島 安伸

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 16 科目 (含む実験実習等)
- ② 学位論文審査： 博士 (主査 0 件、副査 0 件)、修士 (主査 0 件、副査 0 件)
- ③ 指導学生数： 大学院 (指導教員：後期課程 1 名、前期課程 0 名、副指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名)、学部生 7 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他 ()

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 2 件、国際会議 0 件、会議報告 3 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 1 件、書評 0 件、その他 ()

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
学術論文	嗜好性味刺激摂取行動における扁桃体中心核の役割	篠原祐平, 八十島安伸, 乾賢, 志村 剛	2008/12/1	日本味と匂学会誌	15(3): 303-306
学術論文	甘味溶液の過剰摂取モデルの構築	八十島安伸, 篠原祐平, 志村 剛	2008/12/1	日本味と匂学会誌	15(3): 453-454
解説・総説	食行動の障害とその生物学的基盤	八十島安伸, 篠原祐平, 志村 剛	2009/3/1	大阪大学大学院人間科学研究科紀要	35, 71-98

所属： 行動学系 氏名： 乾 賢

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 0 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 0 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名、副指導教員：後期課程 1 名、前期課程 0 名）、学部生 1 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 0 件、国際会議 1 件、会議報告 1 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 12 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 2 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 2 名、前期課程 3 名、副指導教員：
 後期課程 0 名、前期課程 0 名）、学部生 5 名、留学生 0 名、研究生 0 名、
 その他（他大学の博士論文の副査 1 件）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 2 件、国際会議 3 件、会議報告 0 件、
 大学等の報告 1 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	心理学フロンティア, I-15 節 多次元尺度法, I-16 節 構造方程式モデリング	足立浩平	2008/6/1	新曜社	
学術論文	Multiple Correspondence Analysis as Reduced Rank Approximation of Quantified Indicator Matrices	K. Adachi & T. Murakami	2008/12/1		40-49
学術論文	Joint Procrustes Analysis: Minimizing a LS Function of a Nonsingular Matrix and Its Inverse Matrix with SVD Reparameterization	K. Adachi	2008/12/1	The Proceedings of International Association of Statistical Computing (IASC) 2008	32-39
会議報告/口頭発表	Joint Procrustes Component Analysis for Exploring the Perceptual and Semantic Structures in Three-Way Semantic Differential Data	Kohei Adachi	2008/7/1	XXIX International Congress of Psychology, Scientific Program/Abstract	
会議報告/口頭発表	Joint Procrustes Analysis with Constrained Simplimax Rotation: Nonsingular Transformation of Component Score and Loading Matrices Toward Simple Structure	Kohei Adachi	2008/7/1	32nd Annual Conference of the German Classification Society: Program and Abstract Volume	p. 2
会議報告/口頭発表	Joint Procrustes Analysis in the S-O-R Framework	Kohei Adachi	2008/7/1	International Meeting of Psychometric Society, 2008	

分類(著書 ・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元 ／掲載誌	巻号頁
解説・総説	多重対応分析	足立浩平	2009/3/1	日本行動計量学会第12回春のセミナー&長崎大学アドミッションセンター第4回FD「データ解析スキルアップ」講演論文・資料集	pp.1-30

所属： 行動学系 氏名： 宮本 友介

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 7 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 0 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名、副指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名）、学部生 0 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 1 件、国際会議 3 件、会議報告 0 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
学術論文	Smiling reduces masculinity: Principal component analysis applied to facial images	Satoru Kawamura, Masashi Komori and Yusuke Miyamoto	2008/11/1	Perception	37: 1637-1648
国際会議 (proceedings あり)	Multimode independent component analysis and relaxing independence assumption	Miyamoto, Yusuke	2008/7/1	Abstract of XXIX international Congress of Psychology	
国際会議 (proceedings あり)	Photographs of mountains taken from a higher altitude appear to make them look taller than photographs of mountains taken from a lower altitude	Satoru Kawamura, Shuya Hashimoto and Yusuke Miyamoto	2008/7/1		
国際会議 (proceedings なし)	A joint rotation method based on independent analysis	MIYAMOTO, Yusuke	2008/12/1	Program & Abstracts of IASC2008	

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 11 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 1 件）、修士（主査 0 件、副査 1 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 2 名、前期課程 0 名、副指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名）、学部生 2 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 0 件、国際会議 0 件、会議報告 5 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
会議報告/口頭発表	樹上および地上支持基体におけるニホンザル四足歩行の圧力計測	日暮泰男、平崎鋭矢、熊倉博雄	2008/9/1		
会議報告/口頭発表	書字動作における指の運動解析	熊倉博雄、廣川容子、日暮泰男、平崎鋭矢、安永雅博、丸山聡	2008/11/1		
会議報告/口頭発表	シロテテナガザルのブラキエーションにおける体肢運動	岡健司、廣川容子、平崎鋭矢、熊倉博雄	2008/11/1		
会議報告/口頭発表	支持基体構造がニホンザルの前後肢運動に及ぼす影響	日暮泰男、平崎鋭矢、熊倉博雄	2008/11/1		
会議報告/口頭発表	霊長類腰方形筋の筋構築	岡健司、熊倉博雄	2008/11/1		

所属： 行動学系 氏名： 中野 良彦

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 18 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 0 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名、副指導教員：後期課程 2 名、前期課程 2 名）、学部生 2 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 0 件、国際会議 1 件、会議報告 4 件、大学等の報告 1 件、解説・総説 1 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
会議報告/口頭発表	霊長類の運動特性による発達変化の差について	中野良彦	2008/7/1	Primate Res.	24 suppl.:26.
会議報告/口頭発表	The morphological comparison of the articular surface of the zygapophyseal joint among primates.	Yoshihiko NAKANO	2008/12/1	Anthropological Science	116(3):261
会議報告/口頭発表	Ruminantia from the Middle Miocene of Nachola, Northern Kenya.	TSUJIKAWA,H., NAKANO,Y., ISHIDA,H.	2008/12/1	Anthropological Science	116(3):276
会議報告/口頭発表	ケニア北部ナチョラのイノシシ亜目化石について	辻川寛、中野良彦、マーチン・ピックフォード、石田英實	2009/3/1	解剖学雑誌	84 suppl.:227.
解説・総説	歩行と自然人類学—化石の証拠に基づいて—	中野良彦、岡健司	2009/1/1	理学療法	26(1):41-47

所属： 行動学系 氏名： 平崎 鋭矢

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 0 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 0 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名、副指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名）、学部生 0 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 2 件、国際会議 3 件、会議報告 3 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 2 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
学術論文	歩行中に頭部は冠状面内でのように動くのか	平崎鋭矢	2008/8/1	バイオメカニズム	19: 117-124
解説・総説	前庭系とバイオメカニズム.	平崎鋭矢	2008/5/1	バイオメカニズム雑誌	32: 29-30

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 22 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 3 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 1 名、前期課程 1 名、副指導教員：
 後期課程 2 名、前期課程 4 名）、学部生 10 名、留学生 0 名、研究生 0 名、
 その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 2 件、国際会議 2 件、会議報告 5 件、
 大学等の報告 1 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
学術論文	Do female ring-tailed lemurs exhibit skewed birth sex ratio according social and environmental situations? : A preliminary analysis on a wild population.	Takahata, Y., N. Koyama, S. Ichiro, N. Miyamoto, & M. Nakamichi.	2008/4/1	Primates	49: 135-138
学術論文	Monkeys with disabilities: Prevalence, severity and survival of Macaca fuscata with limb malformations on Awaji Island.	Turner, S. E., L. M. Fedigan, H. Nobuhara, T. Nobuhara, Matthews, H. D., M.Nakamichi.	2008/7/1	Primates	49: 223-226.
国際会議 (proceedings あり)	Observations of birth in free-ranging Japanese macaques.	S. Turner, L.M. Fedigan, M. Nakamichi, H. Nobuhara, T. Nobuhara, K. McKenna, H.D. Matthewes, K. Shimizu.	2008/8/1		p. 132
国際会議 (proceedings あり)	Maternal visual monitoring of the infant in a free-ranging group of Japanese monkeys (Macaca fuscata).	K. Onishi, M. Nakamichi.	2008/10/1		p.132
会議報告/口頭発表	霊長類における子どもの背中での運搬	中道正之・山田一憲	2008/7/1	霊長類研究	24 巻 増補版 S-29
会議報告/口頭発表	ニホンザルにおける子の運搬の発達変化	山田一憲・中道正之	2008/7/1	霊長類研究	

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
会議報告/口頭発表	ニホンザルの母ザルはどのように子ザルの鳴き声に反応するのか？	大西賢治・中道正之	2009/3/1	日本発達心理学会第20回大会論文集	149
会議報告/口頭発表	ニホンザルの子に対する運搬行動の発達変化	山田一憲・中道正之	2009/3/1	日本発達心理学会第20回大会論文集	166
大学・研究所等の報告	野猿公園に対する意識調査－来園者からの質問を手がかりとして－	山田一憲・中道正之	2009/3/1	大阪大学大学院人間科学研究科紀要	第35巻, 121-134

所属： 社会学系 氏名： 友枝 敏雄

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 18 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 1 件）、修士（主査 2 件、副査 3 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 1 名、前期課程 4 名、副指導教員：
 後期課程 1 名、前期課程 3 名）、学部生 6 名、留学生 0 名、研究生 0 名、
 その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 2 件、学術論文 1 件、国際会議 0 件、会議報告 0 件、
 大学等の報告 0 件、解説・総説 1 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	社会理論と社会システム	友枝敏雄・浜日出夫・三重野卓編	2009/3/1	中央法規出版	pp.1-9, pp.40-53
会議報告/口頭発表	現代高校生の規範意識(1)	友枝敏雄	2008/5/1	第 59 回関西社会学会大会報告要旨集	p.63
会議報告/口頭発表	特集1 アジアの中の日本 コメント	友枝敏雄	2008/5/1	フォーラム現代社会学	第7号
解説・総説	シンポジウムに寄せて	友枝敏雄	2009/1/1	学術の動向	第 14 巻 1 号

所属： 社会学系 氏名： 木前 利秋

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 17 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 1 件）、修士（主査 0 件、副査 4 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 3 名、前期課程 0 名、副指導教員：後期課程 1 名、前期課程 0 名）、学部生 0 名、留学生 0 名、研究生 1 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 2 件、学術論文 8 件、国際会議 1 件、会議報告 1 件、大学等の報告 1 件、解説・総説 1 件、書評 3 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	『社会の構造と変動』・「R・ロバートソン『グローバリゼーション』」	井上俊・伊藤公雄(編)、木前利秋、その他	2008/7/1	世界思想社	229-238 頁
学術論文	他者の意図—『メタ構想力』を刊行して	木前利秋	2008/7/1	『未来』	No.502, 1-5 頁
学術論文	公共圏へのまなざし(1):理性の行方—ハーバーマスと批判理論1	木前利秋	2008/10/1	『未来』	No.505, 1-7 頁
学術論文	公共圏へのまなざし(2):理性の行方—ハーバーマスと批判理論2	木前利秋	2008/11/1	『未来』	No.506, 30-37 頁
学術論文	公共圏へのまなざし(3):理性の行方—ハーバーマスと批判理論3	木前利秋	2008/12/1	『未来』	No.507, 31-37 頁
学術論文	公共圏へのまなざし(4):理性の行方—ハーバーマスと批判理論4	木前利秋	2009/1/1	『未来』	No.508, 31-37 頁
学術論文	公共圏へのまなざし(5):理性の行方—ハーバーマスと批判理論5	木前利秋	2009/2/1	『未来』	No.509, 31-37 頁
学術論文	自己反省の変容	木前利秋	2009/2/1	『唯物論研究』	第 107 号, 37-45 頁
学術論文	公共圏へのまなざし(6):理性の行方—ハーバーマスと批判理論6	木前利秋	2009/3/1	『未来』	No.510, 31-35 頁
国際会議 (proceedings あり)	The Environmental Risk in the Global Age: From the Perspective of 'Environmental Culture'	Toshiaki Kimae	2008/4/1		

分類(著書・学术论文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
書評	書評・ジェームズ・ミッテルマン『オルター・グローバリゼーション』奥田和彦・滝田賢治 訳	木前利秋	2008/8/1	『週刊読書人』	第 2752 号
書評	書評・ジャンバッティスタ・ヴィーコ『新しい学1・2・3』上村忠男 訳、法政大学出版局	木前利秋	2008/12/1	『週刊読書人』	第 2766 号

所属： 社会学系 氏名： 川端 亮

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 23 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 2 件、副査 3 件）、修士（主査 2 件、副査 2 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 2 名、前期課程 4 名、副指導教員：
 後期課程 6 名、前期課程 5 名）、学部生 25 名、留学生 1 名、研究生 1 名、
 その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 0 件、国際会議 1 件、会議報告 4 件、
 大学等の報告 件、解説・総説 件、書評 件、その他（ 科研費報告書 1 件 ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
国際会議 (proceedings あり)	Good Faith in the Digital Age: Controversy and Ideology in Online Deliberation	Deen Freelon, Mitsuharu Watanabe, Laura Busch, Akira Kawabata	2008/10/1		
会議報告/口頭発表	SGI-USA の展開	川端亮	2008/5/1		
会議報告/口頭発表	SGI-USA におけるアメリカ化－教えと組織の面から－	川端亮・稲場圭信・秋庭裕	2008/11/1		
会議報告/口頭発表	アメリカ人の宗教への回心－SGI-USA の事例－	稲場圭信・川端亮・秋庭裕	2008/11/1		
会議報告/口頭発表	ハワイから西海岸へ－SGI-USA の「仏法西還」－	秋庭裕・稲場圭信・川端亮	2008/11/1		
その他	SGI-USA におけるアメリカ化の進展	川端亮	2008/6/1	グローバリゼーション状況における日本型新宗教の可能性についての比較社会的検討	

所属： 社会学系 氏名： 吉川 徹

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 20 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 2 件、副査 4 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 3 名、前期課程 4 名、副指導教員：後期課程 4 名、前期課程 4 名）、学部生 30 名、留学生 1 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 1 件、国際会議 件、会議報告 1 件、大学等の報告 2 件、解説・総説 2 件、書評 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	教育フォーラム記録「島根の教育に期待する」	島田博司, 玄田有史, 吉川徹	2009/1/1	島根の教育を愛する会	
著書	リーディングス 日本の教育と社会 13 教育の不平等	吉川徹 他	2009/2/1	日本図書センター	188-203
著書	学歴分断社会	吉川徹	2009/3/1	筑摩書房 ちくま新書	
学術論文	ポスト産業化期の学歴格差	長松奈美江, 吉川徹	2009/2/1	『フィナンシャル・レビュー』	Vol. 92, 73-92

所属： 社会学系 氏名： 牟田 和恵

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 19 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 2 件）、修士（主査 3 件、副査 10 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 6 名、前期課程 6 名、副指導教員：後期課程 2 名、前期課程 3 名）、学部生 15 名、留学生 3 名、研究生 2 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 2 件、学術論文 1 件、国際会議 1 件、会議報告 3 件、大学等の報告 1 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	『ジェンダー・スタディーズ--女性学・男性学を学ぶ』	牟田和恵	2009/3/1	大阪大学出版会	全体編集
学術論文	The Making of Sekuhara: Sexual Harassment in Japanese Culture	Muta, Kazue	2008/11/1	East Asian Sexualities: Modernity, Gender and New Sexual Cultures	52-68

所属： 社会学系 氏名： 辻 大介

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 15 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 2 件）、修士（主査 0 件、副査 2 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 1 名、副指導教員：後期課程 4 名、前期課程 4 名）、学部生 18 名、留学生 1 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 5 件、学術論文 2 件、国際会議 0 件、会議報告 1 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	メディア・コミュニケーション学	橋元良明,松田美佐,小平さち子,辻大介,南田勝也,三浦麻子,森康俊,是永論,見城武秀	2008/4/1	大修館書店	
著書	文化社会学の視座	南田勝也,辻泉,辻大介,岡本朝也,鈴木謙介,名部圭一,木島由晶,永井純一,中西泰子,藤井尚,松谷創一郎,阿部真大,田辺俊介	2008/5/1	ミネルヴァ書房	
著書	どこか<問題化>される若者たち	羽渕一代,牧野智和,石川良子,山口恵子,岡本祐二,辻大介,松谷創一郎,永田夏来,中村由佳,谷本奈穂	2008/10/1	恒星社厚生閣	
著書	「インターネットと人権」を考える	奥野卓司,林紘一郎,松井修視,桑子博行,碓井真史,辻大介,中原美香,石田英敬	2009/3/1	解放出版社	100-118

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	よくわかるメディア・スタディーズ	伊藤守,辻大介,他	2009/3/1	ミネルヴァ書房	
学術論文	若者のコミュニケーションにおける配慮の現れ方	辻大介	2008/11/1	文学	9巻6号
会議報告/口頭発表	「ネット右翼」性と一般的「右傾」性との乖離 ～ウェブ質問紙調査の分析結果から	辻大介	2008/11/1		
大学・研究所等の報告	1950～60年代のテレビCMにおける科学・技術の表象分析の試み ～テレビCMアーカイブの研究利用の可能性を探る	辻大介	2008/9/1	テレビCM研究	vol.1
その他	友だちがいないと見られることの不安	辻大介	2009/1/1	少年育成	634号
その他	調査データから探る「ネット右翼」の実態	辻大介	2009/3/1	Journalism	226号

所属： 社会学系 氏名： スコット・ノース

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 13 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 2 件）、修士（主査 0 件、副査 1 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 2 名、前期課程 3 名、副指導教員：
 後期課程 ? 名、前期課程 ? 名）、学部生 10? 名、留学生 5 名、研究生 1 名、
 その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 2 件、国際会議 5 件、会議報告 5 件、
 大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	「男もつらいよ:男性の立場から考える仕事と家庭の両立問題」第4章『ジェンダー・スタディーズ』牟田和恵編	スコット・ノース	2009/3/1	大阪大学出版会	Ch. 4
国際会議 (proceedings あり)	Where Change Creates Continuity: The Paradoxical Culture of Domesticity in Contemporary Japan	Scott North	2008/8/1		
会議報告/口頭発表	Frayed White Collars: The Future of Leisure in Japan and the United States	Scott North	2008/9/1		
会議報告/口頭発表	Explaining Japanese Exceptionalism in Father Involvement	Scott North	2008/10/1		
会議報告/口頭発表	Getting Uppity: Fighting for Worker Health and Well-Being in 21st Century Japan	Scott North	2009/3/1		
会議報告/口頭発表	How Is Neo-liberalism Affecting Japanese Worker Well-Being? Evidence from Trends in Work Hours and Overwork	Scott North	2009/3/1		

所属： 社会学系 氏名： 山中 浩司

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 14 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 1 件、副査 1 件）、修士（主査 0 件、副査 0 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 7 名、前期課程 2 名、副指導教員：後期課程 4 名、前期課程 3 名）、学部生 20 名、留学生 1 名、研究生 1 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 〃 件、学術論文 1 件、国際会議 1 件、会議報告 〃 件、大学等の報告 〃 件、解説・総説 〃 件、書評 〃 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
学術論文	医療現場における電子カルテの影響	工藤直志,山中浩司	2009/3/1	大阪大学大学院人間科学研究科研究紀要	35: 153-171

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 1 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 3? 件）、修士（主査 1 件、副査 5? 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 4 名、副指導教員：後期課程 名、前期課程 名）、学部生 2 名、留学生 1 名、研究生 1 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 0 件、国際会議 0 件、会議報告 0 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 31 件、書評 1 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	医療マネジメント～医療の質の向上のための医療経済学～第2章1, 2	堤 修三	2008/4/1	日経メディカル 開発	
解説・総説	高齢者医療制度と憲法	堤 修三	2008/4/1	週刊社会保障	
解説・総説	平成 20 年度政管健保国庫負担削減法案を読んで	堤 修三	2008/4/1	月刊介護保険 情報	
解説・総説	おさらい社会保障目的消費税	堤 修三	2008/4/1	月刊シニアビジネスマーケット	
解説・総説	転形期の精神	堤 修三	2008/5/1	月刊介護保険 情報	
解説・総説	要介護認定をする重み	堤 修三	2008/5/1	月刊シニアビジネスマーケット	
解説・総説	皆の意見を聞いたら誰もが願わぬ仕儀になる－高齢者医療制度の政治学－	堤 修三	2008/6/1	月刊シニアビジネスマーケット	
解説・総説	一元化された制度は行き詰まる	堤 修三	2008/6/1	月刊介護保険 情報	
解説・総説	迷走する高齢者医療制度－今その歴史から学ぶとき	堤 修三	2008/6/1	社会保険旬報	
解説・総説	自己実現とパターンリズム	堤 修三	2008/7/1	月刊介護保険 情報	
解説・総説	社会福祉法人のこれから	堤 修三	2008/7/1	月刊シニアビジネスマーケット	

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
解説・総説	高齢者医療制度はどこで間違えたか	堤 修三	2008/7/1	論座	
解説・総説	後期高齢者医療制度は維持可能か	堤 修三	2008/7/1	中小商工業研究	
解説・総説	介護保険のモラルハザード	堤 修三	2008/8/1	月刊介護保険情報	
解説・総説	ゼロベース思考のすすめ	堤 修三	2008/8/1	月刊シニアビジネスマーケット	
解説・総説	後期高齢者医療制度はなぜ失敗したのか？	堤 修三	2008/8/1	エコノミスト	
解説・総説	地方政府と介護保険	堤 修三	2008/9/1	月刊介護保険情報	
解説・総説	医療費財源としてのたばこ税	堤 修三	2008/9/1	月刊シニアビジネスマーケット	
解説・総説	危ない橋－後期高齢者医療広域連合の不確かさ－	堤 修三	2008/10/1	月刊シニアビジネスマーケット	
解説・総説	理性の公的な使用について	堤 修三	2008/10/1	月刊介護保険情報	
解説・総説	高齢者医療費重荷論を超えて－機械的公平より社会的納得を－	堤 修三	2008/10/1	社会保険旬報 2008/10/21	
解説・総説	西濃運輸健保組合の自爆テロ？	堤 修三	2008/11/1	月刊シニアビジネスマーケット	
解説・総説	公的なファイナンスと自由なサービス市場	堤 修三	2008/11/1	月刊介護保険情報	
解説・総説	破綻は必至！ 後期高齢者医療制度	堤 修三	2008/11/1	イミダス・スペシャル『時事力』	
解説・総説	二大政党制と社会保障	堤 修三	2008/12/1	月刊シニアビジネスマーケット	
解説・総説	貢献原則の緩みとその先にあるもの	堤 修三	2008/12/1	月刊介護保険情報	
解説・総説	貢献原則の緩みとその先にあるもの(その2)	堤 修三	2009/1/1	月刊介護保険情報	
解説・総説	個人と社会保障、そしてケア	堤 修三	2009/1/1	月刊シニアビジネスマーケット	

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
解説・総説	介護保険の9年	堤 修三	2009/2/1	月刊介護保険情報	
解説・総説	よくわかる！高齢者医療制度改革(1)	堤 修三	2009/2/1	月刊シニアビジネスマーケット	
解説・総説	よくわかる！高齢者医療制度改革(2)	堤 修三	2009/3/1	月刊シニアビジネスマーケット	
解説・総説	無名で有用の人々／有名で無用の人々	堤 修三	2009/3/1	月刊介護保険情報3月号	
書評	書評『自立支援と社会保障』	堤 修三	2008/9/1	社会保険旬報	

所属： 社会学系 氏名： 斉藤 弥生

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 21 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 2 件、副査 2 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 1 名、前期課程 4 名、副指導教員：後期課程 0 名、前期課程 4 名）、学部生 8 名、留学生 2 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 2 件、学術論文 1 件、国際会議 0 件、会議報告 2 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（科研費最終報告書 1 件）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	新・社会福祉士養成講座第9巻 地域福祉の理論と方法ー地域福祉論「第6章参加と方法 第3節 住民の代表制と参加方法」	斉藤弥生	2009/3/1	中央法規出版株式会社	164-171
著書	新・社会福祉士養成講座第4巻 現代社会と福祉ー社会福祉原論「第14章福祉政策の国際比較 第1節欧米の社会福祉」	斉藤弥生	2009/3/1	中央法規出版株式会社	
学術論文	「公民館活動」という名の地域ガバナンスー松江市の地域福祉の事例から	斉藤弥生	2009/3/1	地域福祉研究	第37号
会議報告/口頭発表	地域福祉と納税者としての学習機会ー社会教育の可能性を考える	斉藤弥生	2008/6/1		
会議報告/口頭発表	スウェーデンにおける介護職員の労働条件向上へのアプローチ	斉藤弥生	2008/12/1		
大学・研究所等の報告	地方分権時代における地域福祉活動の効果の測定と方法論の確立に関する学際的研究	斉藤弥生	2009/3/1		

(1) 平成20年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 4 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査0件、副査0件）、修士（主査0件、副査0件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程0名、前期課程0名、副指導教員：後期課程0名、前期課程0名）、学部生0名、留学生0名、研究生0名、その他（ ）

(2) 平成20年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書1件、学術論文3件、国際会議0件、会議報告2件、大学等の報告1件、解説・総説0件、書評0件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
著書	カルトとスピリチュアリティ—現代日本における「救い」と「癒し」—	櫻井義秀編	2009/1/1	ミネルヴァ書房	
学術論文	グローバルな運動におけるユーモアの潮流—テロリズム・粛清・ルサンチマンを回避しつつ	渡邊太	2008/5/1	笑いの科学	1, 96-103
学術論文	大阪市「新世界アーツパーク」にみる文化政策の課題—文化と公共性の現場	櫻田和也・吉澤弥生・渡邊太	2008/6/1	文化政策研究	
学術論文	バランス仮説と主観の一致—生活空間にはたらく諸力	渡邊太	2008/10/1	ソシオロジ	53(2)
会議報告/口頭発表	フリッツ・ハイダーの人間像	渡邊太	2008/11/1	日本社会心理学会第49回大会ワークショップ「社会心理学のパイオニアを温めて」	
会議報告/口頭発表	カルト信者とひきこもりへの介入—生存と承認をめぐって—	渡邊太	2008/11/1	第81回日本社会学会大会報告要旨集	
会議報告/口頭発表	横断するポピュラーカルト—スピリチュアル理性批判—	渡邊太	2009/3/1	第2回横断するポピュラーカルチャー研究交流ワークショップ(ディスカッション・ペーパー)	

所属： 人間学系 氏名： 中山 康雄

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 27 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 2 件、副査 8 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 1 名、前期課程 3 名、副指導教員：
 後期課程 0 名、前期課程 0 名）、学部生 8 名、留学生 0 名、研究生 0 名、
 その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 3 件、学術論文 1 件、国際会議 0 件、会議報告 0 件、
 大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	Proceedings of the Fifth International Workshop on Logic and Engineering of Natural Language Semantics LENLS (2008)	Yasuo Nakayama (ed.)	2008/6/1	Japanese Society for Artificial Intelligence	
著書	科学哲学入門 — 知の形而上学	中山 康雄	2008/10/1	勁草書房	
学術論文	正当化の帰属説を用いた命題的知識の分析	中山 康雄	2009/3/1	大阪大学大学院人間科学研究科紀要	vol. 35, pp. 193-206

所属： 人間学系 氏名： 檜垣 立哉

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 25 科目 (文学部での講義含む)
 ② 学位論文審査： 博士 (主査 0 件、副査 1 件(文学研究科))、修士 (主査 6 件、副査 2 件)
 ③ 指導学生数： 大学院 (指導教員：後期課程 3 名、前期課程 10 名、副指導教員：
 後期課程 4 名、前期課程 3 名)、学部生 8 名(グループ指導)、留学生 (研究生) 1 名、
 その他 ()

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 2 件(共著 1)、学術論文 5 件、国際会議 1 件、会議報告 1 件、
 大学等の報告 件、解説・総説 件、書評 2 件、その他 (対談・インタビュー 2)

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
著書	『哲学の歴史 第12巻』「ベルクソン」の項	鷲田清一編	2008/4/1	中央公論新社	
著書	『賭博/偶然の哲学』	檜垣立哉	2008/10/1	河出書房新社	
学術論文	見者(ヴォワイヤン)の時間	檜垣立哉	2008/5/1	思想	1009号
学術論文	細胞の自己 細胞の他者	檜垣立哉	2008/7/1	現代思想	vol38-8
学術論文	パラドックスとユーモアの哲学	檜垣立哉	2008/11/1	現代思想	vol36-15
学術論文	生命と微分 西田と九鬼を巡るひとつの考察	檜垣立哉	2008/12/1	日本の哲学	第9号
学術論文	生成の歴史	檜垣立哉	2009/3/1	思想	1019号
国際会議 (proceedingsあり)	Le <tournant> dans l'interpretation deleuzienne de Bergson	HIGAKI,Tatsuya	2009/3/1	Philosophiea OSAKA	NO4
会議報告/口頭発表	生権力とセクシュアリティ	檜垣立哉	2009/3/1	コンフリクトの人文文学	第一号
書評	二人で書くことの実践をさらに何度も二重化させていくこと	檜垣立哉	2008/10/1	図書新聞	2888
書評	書評 萱野稔人『権力の読み方』	檜垣立哉	2008/12/1	フランス哲学・思想研究	13号

分類(著書・学术论文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
その他	討議 来るべきドゥルーズ	小泉義之・檜垣立哉	2008/11/1	現代思想	vol36-15
その他	賽の一振り 無限を含んだ自己が跳躍する時	檜垣立哉	2009/3/1	談	84号

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 21 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 9 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 1 名、前期課程 1 名、副指導教員：後期課程 3 名、前期課程 9 名）、学部生 2 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 3 件、学術論文 3 件、国際会議 2 件、会議報告 2 件、大学等の報告 件、解説・総説 件、書評 1 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	Hyperbole - pour une psychopathologie levinassienne	Yasuhiko Murakami	2008/4/1	Association pour la promotion de la phenomenologie	
著書	自閉症の現象学	村上靖彦	2008/5/1	頸草書房	
著書	"De la resurrection des morts ; L'eschatologie et l'hermeneutique chez Levinas et la metaphysique phenomenologique" in Emmanuel Levinas : La question du livre	Yasuhiko Murakami	2008/8/1	IMEC	
学術論文	沈黙と回復～メルロ＝ポンティの主体変容論	村上靖彦	2008/12/1	現代思想	36(16), 168-181
学術論文	主体変容 - 現実受容の装置としての夢と物語	村上靖彦	2008/12/1	創文	515, pp. 15-19
学術論文	Decouverte d'autrui chez les autistes et la structuration du sujet ; Pour une phenomenologie genealogique	Yasuhiko Murakami	2009/2/1		no.8, pp. 163-180

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
学術論文	沈黙の聴取 ～ 『存在と時間』を不安と回復の現象学として読む	村上靖彦	2009/3/1	科研費報告書「いのち・からだ・こころ」をめぐる現代の問題への応用現象学からの貢献の試み(18320003)	pp. 275-288
国際会議 (proceedings なし)	We did not know what happened to us" - A Phenomenology of Reality	Yasuhiko Murakami	2008/4/1		
国際会議 (proceedings なし)	The Phase of affection, the Sphere of Apparition – Fundament for the phenomenological psychopathology	Yasuhiko Murakami	2008/7/1		
会議報告/口頭発表	現実触発への還元～非超越論的現象学へのプロレゴメナ	村上靖彦	2008/11/1		

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 19 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 1 件、副査 9 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 1 名、前期課程 2 名、副指導教員：
 後期課程 1 名、前期課程 1 名）、学部生 0 名、留学生 2 名、研究生 1 名、
 その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 4 件、学術論文 1 件、国際会議 1 件、会議報告 1 件、
 大学等の報告 0 件、解説・総説 1 件、書評 3 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	The Power of Memory in Modern Japan	Wolfgang Schwentker	2008/8/1	Global Oriental	
学術論文	Symbolischer Nationalismus: Der Reichsgründungstag als japanischer Erinnerungsort	Wolfgang Schwentker	2008/4/1		
学術論文	Diener und Herrscher. Die japanische Geschichte im Spiegel der Samurai	Wolfgang Schwentker	2008/4/1		
学術論文	Realms of Memory: Japan and Beyond	Wolfgang Schwentker	2008/8/1		
学術論文	Eguchi Bokuro als Pionier der japanischen Weltgeschichtsschreibung	Wolfgang Schwentker	2008/10/1		
学術論文	1945年以降の映画における戦争と社会—ドイツ、日本、イタリアの比較から	ヴォルフガング・シュヴェントカー	2009/1/1	法学(東北大学)	第 72 巻 6 号

(4) 受賞・特許・作品、他

受賞年月	受賞者名	賞名	主催団体名
2008/5/1	Wolfgang Schwentker	2006/07 年ベスト・歴史書の第3位入賞	雑誌「Damals」

所属： 人間学系 氏名： 中川 敏

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 19 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 2 件）、修士（主査 1 件、副査 1 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 7 名、前期課程 3 名、副指導教員：
 後期課程 1 名、前期課程 1 名）、学部生 17 名、留学生 7 名、研究生 2 名、
 その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 件、学術論文 3 件、国際会議 2 件、会議報告 件、
 大学等の報告 件、解説・総説 件、書評 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
学術論文	コスモスからピュシスへ:人類学的近代論の試み	中川 敏	2008/4/1	文化人類学	72 4 pp. 466--484
その他	ゲーム	中川敏	2009/1/1	文化人類学辞典	
その他	象徴人類学	中川敏	2009/1/1	文化人類学辞典	

所属： 人間学系 氏名： 森田 敦郎

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 14 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 1 件）、修士（主査 0 件、副査 2 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名、副指導教員：
 後期課程 名、前期課程 5 名）、学部生 17 名、留学生 1 名、研究生 1 名、
 その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 2 件、学術論文 3 件、国際会議 1 件、会議報告 5 件、
 大学等の報告 3 件、解説・総説 件、書評 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
著書	「タイ:徒弟制とクラフト労働市場の役割」、岡田亜弥・山田宵子・吉田和浩編『産業スキルディベロプメント:グローバル化と途上国の人材育成』	森田敦郎	2008/8/1	日本評論社	
著書	「モノをめぐる実践のトポロジー」、田中雅一編『フェティシズム研究1 フェティシズム論の系譜と展望』	森田敦郎	2009/2/1	京都大学学術出版会	
著書	「タイにおけるTVETとその文脈の多元性—徒弟制とクラフト労働市場の役割に注目して—」吉田和浩編『スキル・ディベロプメント分野の教育協力と経済発展に関する調査研究』	森田敦郎	2009/3/1	広島大学教育開発国際協力センター	
学術論文	「序 アカウンタビリティと目に見える世界の探求」	森田敦郎	2009/3/1	『文化人類学』	73(4): 499-509
学術論文	「デザイン、能力、ヒエラルキー:タイ土着の機械技術における人とモノの目に見える秩序」	森田敦郎	2009/3/1	『文化人類学』	73(4): 561-586

所属： 教育学系 氏名： 藤川 信夫

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 23 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 1 件、副査 2 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 2 名、前期課程 1 名、副指導教員：
 後期課程 0 名、前期課程 2 名）、学部生 11 名、留学生 0 名、研究生 0 名、
 その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 3 件、学術論文 0 件、国際会議 0 件、会議報告 0 件、
 大学等の報告 1 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	歴史的人間学事典1	クリストフ・ヴルフ(編)	2008/5/1	勉誠出版	
著書	歴史的人間学事典3	クリストフ・ヴルフ	2008/5/1	勉誠出版	
著書	教育人間学の展開	平野正久(編著)	2009/1/1	北樹出版	203-222
大学・研究所等の報告	雲南省彝族経典データベース	藤川信夫	2008/10/1		

(4) 受賞・特許・作品、他

受賞年月	受賞者名	賞名	主催団体名
2008/4/1	藤川信夫, 樊秀麗, 普学旺	国家珍貴古籍名録(番号 02354)	中華人民共和国文化部

所属： 教育学系 氏名： 森 秀樹

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 1 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 件、副査 件）、修士（主査 件、副査 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程8名、前期課程3名、副指導教員：
後期課程 名、前期課程 名）、学部生 7 名、留学生 2 名、研究生 名、
その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 件、学術論文 件、国際会議 件、会議報告2件、
大学等の報告 件、解説・総説 件、書評 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書 ・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元 ／掲載誌	巻号頁
会議報告/口頭 発表	小学生を対象としたロボット教材と活用に関する一考察	森 秀樹	2008/9/1	教育システム 情報学会 第 33 回全国大会 講演論文集	154-155
会議報告/口頭 発表	Cricket と Scratch を使った小学校情報教育の試み	森 秀樹、杉澤 学	2008/10/1	日本教育工学会 第 24 回全国 大会講演論文集	489-490

所属： 教育学系 氏名： 藤岡 淳子

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 16 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 4 件、副査 3 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 5 名、副指導教員：
 後期課程 1 名、前期課程 5 名）、学部生 25 名、留学生 0 名、研究生 0 名、
 その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 2 件、学術論文 0 件、国際会議 0 件、会議報告 2 件、
 大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	関係性における暴力～その理解と回復への手立て	藤岡淳子	2008/5/1	岩崎学術出版	
著書	子どもと思春期の精神医学	中根晃、牛島定信、村瀬嘉代子	2008/5/1	金剛出版	60～66

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 21 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 1 件）、修士（主査 3 件、副査 4 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 1 名、前期課程 3 名、副指導教員：
 後期課程 0 名、前期課程 4 名）、学部生 32 名、留学生 0 名、研究生 0 名、
 その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 1 件、国際会議 4 件、会議報告 10 件、
 大学等の報告 0 件、解説・総説 1 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
著書	キーワードコレクション 心理学フロンティア	中谷素之	2008/6/1	新曜社	pp.108-115.
会議報告/口頭発表	Teacher's classroom management and children's behavior at the beginning of the semester.	TANAKA, Yasuhiro, NAKAYA Motoyuki	2008/6/1	Proceedings of XXIX International Congress of Psychology	p. 812.
会議報告/口頭発表	協同・少人数学習の導入が社会的目標および学級適応に及ぼす影響について	中谷素之・杉江修治	2008/6/1	日本協同教育学会第5回大会発表論文集	pp. 13-14.
会議報告/口頭発表	Relations between teacher's classroom management, classroom structure and children's multiple goals.	NAKAYA, Motoyuki	2008/7/1	Proceedings of XXIX International Congress of Psychology	p. 798.
会議報告/口頭発表	The Development of concept of death among Japanese kindergarteners.	TSUJIMOTO, Tai, NAKAYA Motoyuki	2008/7/1	Proceedings of XXIX International Congress of Psychology	p. 163.
会議報告/口頭発表	The effect of interesting introduction and interest value on children's motivation to learn.	TANAKA, Etsuko, NAKAYA Motoyuki	2008/7/1	Proceedings of XXIX International Congress of Psychology	p. 477.
会議報告/口頭発表	学級構造形成が児童の多面的動機づけに及ぼす影響 - ミックスド・メソッドによるアプローチ -	中谷素之	2008/10/1	日本教育心理学会第50回総会発表論文集	pp. 457

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
会議報告/口頭発表	中学生用自己価値の随伴性尺度の開発ー領域に着目した検討ー	大谷和夫・中谷素之	2008/10/1	日本教育心理学会第50回総会発表論文集	pp. 542
会議報告/口頭発表	興味を喚起する授業実践が児童の学習動機づけに及ぼす影響	田中瑛津子・中谷素之	2008/10/1	日本教育心理学会第50回総会発表論文集	p. 69
会議報告/口頭発表	学級経営における熟練教師の信念と指導実践との関連	田中康博・中谷素之	2008/10/1	日本教育心理学会第50回総会発表論文集	p. 366
会議報告/口頭発表	幼児期における死の概念の発達の变化	辻本 耐・中谷素之	2008/10/1	日本教育心理学会第50回総会発表論文集	p. 704
会議報告/口頭発表	小中学生における向社会性についての規範認知と行動及び理由の発達の变化	山村麻予・中谷素之	2008/10/1	日本教育心理学会第50回総会発表論文集	p. 304
会議報告/口頭発表	ネットいじめとその心理的影響	吉川恭世・中谷素之	2008/10/1	日本教育心理学会第50回総会発表論文集	p. 357
会議報告/口頭発表	学校組織における教職員による自発性の構築に向けて	中谷素之	2008/10/1	日本教育心理学会第50回総会発表論文集	p. S6-S7.
会議報告/口頭発表	ピア・ラーニングと動機づけ過程 社会的文脈における学業達成(3)	中谷素之・野崎秀正・伊藤崇達・富田英司・鹿毛雅治・高垣マユミ	2008/10/1	日本教育心理学会第50回総会発表論文集	p. S56-S57.
会議報告/口頭発表	ピア・ラーニングにおける社会的目標の効果 ー小学5年生の分数学習における動機づけモデリングの促進ー	中谷素之・伊藤崇達・岡田涼	2009/3/1	日本発達心理学会第20回大会発表論文集	p. 283
会議報告/口頭発表	児童期における「表出しない向社会的行動」の概念化ー具体的援助が生起しない道徳的葛藤場面における検討ー	山村麻予・中谷素之	2009/3/1	日本発達心理学会第20回大会発表論文集	p. 281
会議報告/口頭発表	ソーシャルサポートおよび登校動機が学校享受感情に与える影響	今中悠・中谷素之	2009/3/1	日本発達心理学会第20回大会発表論文集	p. 280

所属： 教育学系 氏名： 老松 克博

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 28 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 7 件、副査 2 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 8 名、前期課程 11 名、副指導教員：後期課程 4 名、前期課程 2 名）、学部生 2 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 3 件、国際会議 件、会議報告 件、大学等の報告 件、解説・総説 件、書評 1 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	ジョイント・イマジネーションという知恵(織田尚生・大住誠著『現代箱庭療法』, i～iv)	老松克博	2008/8/1	誠信書房	
学術論文	ユング派における性:アニマとアニムス	老松克博	2008/5/1	臨床心理学	8 巻 3 号, 367-372
書評	書評『川崎克哲編著 セラピストは夢をどうとらえるか:五人の夢分析家による同一事例の解釈』	老松克博	2008/4/1	精神療法	34 巻 2 号, 248

所属： 教育学系 氏名： 井村 修

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 19 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 1 件、副査 9 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 5 名、前期課程 5 名、副指導教員：後期課程 8 名、前期課程 12 名）、学部生 5 名、留学生 1 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 3 件、国際会議 0 件、会議報告 4 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
学術論文	筋ジストロフィー患者をもつ親の心理的問題に関する一考察：自由記述回答の分析から	良原誠崇・井村修	2009/3/1	リハビリテーション心理学研究	Vol. 35 (印刷中)
学術論文	筋ジストロフィー患者をもつ家族にとっての短期型サポートグループ体験の意義	良原誠崇, 高田紗英子, 井村修	2009/3/1	大阪大学大学院人間科学研究科紀要	第 35 卷, p. 253—272
学術論文	筋ジストロフィー患者との描画を用いた面接過程—筋ジス患者に対する絵画療法の可能性を考える—	東井申雄, 井村修	2009/3/1	大阪大学大学院人間科学研究科紀要	第 35 卷, p. 229—250

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 18 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 3 件、副査 8 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 4 名、前期課程 8 名、副指導教員：
 後期課程 2 名、前期課程 6 名）、学部生 39 名、留学生 0 名、研究生 0 名、
 その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 1 件、国際会議 0 件、会議報告 4 件、
 大学等の報告 1 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
著書	社会福祉学習双書 第11巻 心理学	宮田敬一他	2009/3/1	全国社会福祉 協議会	199-200.
学術論文	催眠とブリーフセラピー	宮田敬一	2008/9/1	臨床心理学	第18巻 5号
会議報告/口頭 発表	心療内科外来において体位性 頻脈症候群が疑われた患者の 特徴について	飯森洋史・宮田 敬一・川村則行	2008/6/1	第49回日本心 身医学会総会 抄録集	433
会議報告/口頭 発表	臨床動作法著明に改善しため まい感や疼痛の訴えの強い自 律神経失調患者の一例	飯森洋史・山口 久恵・宮田敬一	2008/8/1	日本臨床動作 法学会第16回 大会発表論文 集	40-41
会議報告/口頭 発表	催眠ブリーフセラピーの可能性	宮田敬一	2008/11/1	日本催眠医学 心理学会第54 回大会論文集	22
会議報告/口頭 発表	催眠療法により短期間で改善 した社会不安障害の一例	飯森洋史・山口 久恵・川嶋新 二・宮田敬一	2008/11/1	日本催眠医学 心理学会第54 回大会発表論 文集	51-53
大学・研究所等 の報告	特別支援教育担当教員へのコ ンサルテーションのあり方	宮田敬一・皆川 幸子・藤田和 子・勝田 萌	2009/3/1	科研報告書 基盤研究(A) 「障害児・者の 生涯発達に関 わる臨床心理 学的援助シス テムとネットワ ークの開発」	

(4) 受賞・特許・作品、他

受賞年月	受賞者名	賞名	主催団体名
2008/12/1	宮田敬一	日本リハビリテーション心理学会賞	日本リハビリテーション 心理学会

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 18 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 7 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 2 名、副指導教員：
 後期課程 5 名、前期課程 8 名）、学部生 39 名、留学生 0 名、研究生 0 名、
 その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 3 件、学術論文 0 件、国際会議 1 件、会議報告 3 件、
 大学等の報告 0 件、解説・総説 1 件、書評 0 件、その他（国内学会指定討論 1 件）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	他者を気にするところと行動：人間関係の心理学入門「なぜ人は嫌われていると感じるのか？」	佐々木淳	2008/9/1	金子書房	
著書	叢書・実証にもとづく臨床心理学：臨床認知心理学「自己：自我漏洩感から」	佐々木淳	2008/9/1	東京大学出版会	
著書	医療心理学を学ぶ人のために	佐々木淳・丹野義彦	2009/1/1	世界思想社	
会議報告/口頭発表	A preliminary study of functional and dysfunctional coping behaviors for the depressive mood in Japanese breast cancer patients.	Naoko Wada, Naoshi Ito, Mariko Shiozaki, Jun Sasaki, Shiho Okada, Asuka Mera, Hiroki Inui, & Kei Hirai	2008/8/1	10th International Congress of Behavioral Medicine Abstract Book	113-114
会議報告/口頭発表	乳がん患者における家族への否定的感情の開示に関する研究	岡田紫甫・塩崎麻里子・佐々木淳・米良明日香・和田奈緒子・乾浩己・平井啓	2008/10/1	日本サイコオンコロジー学会総会抄録集	129
会議報告/口頭発表	乳がん患者の抑うつ気分に対する機能的、非機能的な行動に関する探索的研究	和田奈緒子・伊藤直・塩崎麻里子・佐々木淳・米良明日香・岡田紫甫・乾浩己・平井啓	2008/10/1	日本サイコオンコロジー学会総会抄録集	130

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
解説・総説	Studies of Personality and Mental Illness in Japan	Sasaki, J.	2008/9/1	P: The Online Newsletter for Personality Science	3
その他	「精神科臨床における認知行動療法:若手臨床心理職による実践」への指定討論	佐々木淳	2008/9/1	日本心理臨床学会第27回大会発表論文集	517

所属： 教育学系 氏名： 大前 玲子

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 4 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 件、副査 件）、修士（主査 件、副査 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 名、前期課程 名、副指導教員：
後期課程 名、前期課程 名）、学部生 名、留学生 名、研究生 名、
その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 件、国際会議 件、会議報告 件、
大学等の報告 件、解説・総説 件、書評 件、その他（ ）

所属： 教育学系 氏名： 中村 高康

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 22 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 1 件）、修士（主査 0 件、副査 1 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 2 名、前期課程 1 名、副指導教員：
後期課程 0 名、前期課程 3 名）、学部生 8 名、留学生 0 名、研究生 0 名、
その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 1 件、国際会議 0 件、会議報告 3 件、
大学等の報告 _____ 件、解説・総説 1 件、書評 _____ 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
学術論文	メリトクラシーの再帰性について—後期近代における「教育と選抜」に関する一考察—	中村高康	2009/3/1	大阪大学大学院人間科学研究科紀要	Vol.35, pp.207-226.
その他	大学入学者選抜の変容	中村高康	2008/12/1	IDE 現代の高等教育	506 号

所属： 教育学系 氏名： 小野田 正利

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 18 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 1 件）、修士（主査 4 件、副査 3 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 3 名、前期課程 9 名、副指導教員：後期課程 0 名、前期課程 3 名）、学部生 28 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 20 件、国際会議 1 件、会議報告 0 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 1 件、その他（ ）

所属： 教育学系 氏名： 平沢 安政

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 20 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 1 件）、修士（主査 0 件、副査 6 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 5 名、前期課程 1 名、副指導教員：後期課程 7 名、前期課程 8 名）、学部生 8 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 2 件、学術論文 3 件、国際会議 1 件、会議報告 0 件、大学等の報告 1 件、解説・総説 13 件、書評 1 件、その他 (3 件)

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	人権ポケットエッセイ	平沢安政他	2008/10/1	解放出版社	
著書	The Routledge International Companion to Multicultural Education	Yasumasa HIRASAWA et al.	2009/3/1	Routledge	
学術論文	学校人権教育の推進に大きな意味	平沢安政	2008/6/1	部落解放	599号、64-72頁
学術論文	自治体人権啓発冊子について考える	平沢安政	2008/9/1	ヒューマンライツ	No.246
学術論文	学力向上を視野に入れた総合的な人権教育の推進を	平沢安政	2008/12/1	現代教育科学	No.627 (pp.5-7)
国際会議 (proceedings なし)	人権教育としての多文化教育	平沢安政	2009/3/1	国連大学グローバルセミナー 第8回北海道セッション:報告書	
大学・研究所等の報告	Summary Report on the International Workshop on Present Day Buraku Issues	HIRASAWA Yasumasa	2008/11/1	International Workshop and Symposium of Young Scholars Working on "Present Day Buraku Issues"	pp.222-225
解説・総説	人権教育をめぐる国内外の動き	平沢安政	2008/6/1	大阪市人推協だより	No.96 (p.5)

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
解説・総説	コミュニティづくりを軸に差別の解消へ	平沢安政	2008/7/1	部落解放	第 600 号、 96-105 頁
解説・総説	シリーズ人権文化を育てよう① 人権感覚について	平沢安政	2008/8/1	広報伊丹	第 1138 号 (p.3)
解説・総説	人権教育の定義	平沢安政	2008/9/1	大阪市人推協 だより	No.97 (p.5)
解説・総説	シリーズ人権文化を育てよう② 体験的に学ぶ	平沢安政	2008/9/1	広報伊丹	第 1140 号 (p.2)
解説・総説	ワークショップの総合的な報告	平沢安政	2008/10/1	ヒューマンライ ツ	No.247
解説・総説	「部落問題の今」を考える国際 ワークショップ	平沢安政	2008/10/1	GLOBE	No.55 (pp.20-21)
解説・総説	シリーズ人権文化を育てよう③ エピソードをもとに	平沢安政	2008/10/1	伊丹市広報	第 1142 号 (p.2)
解説・総説	シリーズ人権文化を育てよう④ エピソード教材の活用	平沢安政	2008/11/1	広報伊丹	第 1144 号 (p.3)
解説・総説	人権教育の具体像	平沢安政	2008/12/1	大阪市人推協 だより	No.98 (p.9)
解説・総説	シリーズ人権文化を育てよう⑤ 他者を理解すること	平沢安政	2008/12/1	広報伊丹	第 1146 号 (p.2)
解説・総説	「個人の問題」と「社会の問題」	平沢安政	2009/3/1	大阪市人推協 だより	No.99 (p.5)
解説・総説	V. 調査結果の考察	平沢安政	2009/3/1	芦屋市在住外 国人意識調査 報告書	pp.185-201
書評	書評『国際化と教育—異文化 間教育学の視点から(改訂新 版)』	平沢安政	2008/4/1	部落解放研究	第 181 号

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
その他	人権をとらえる4つの視点	平沢安政	2009/3/1	人権教育・啓発のために	pp.33-67
その他	これからの人権教育・啓発の在り方について	平沢安政	2009/3/1	平成20年度全国人権教育担当者研究協議会報告書	pp.5-30
その他	これからの人権教育のあり方について	平沢安政	2009/3/1	2008年度高校人権教育資料集第45集『見つめる・語り合う・つながる人権教育』	pp.8-30

所属： 教育学系 氏名： 木村 涼子

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 23 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 1 件、副査 3 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 2 名、副指導教員：
 後期課程 6 名、前期課程 2 名）、学部生 7 名、留学生 0 名、研究生 0 名、
 その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 2 件、学術論文 1 件、国際会議 1 件、会議報告 _____ 件、
 大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	2008 年版学習指導要領を読む視点「総論3 ジェンダーの視点から読み取れるもの」	木村涼子他	2008/8/1	白澤社	
著書	ジェンダーで考える教育の現在－フェミニスト教育学をめざして	木村涼子他	2008/12/1	解放出版社	
著書	新編日本のフェミニズム8 ジェンダーと教育「ジェンダーと学校文化」	木村涼子他	2009/1/1	岩波書店	
会議報告/口頭発表	ジェンダー学の意義と可能性	木村涼子	2008/5/1		
会議報告/口頭発表	教師教育におけるジェンダー視点の必要性	木村涼子他	2008/9/1		
会議報告/口頭発表	日本の教育システムとジェンダー－国家の教育政策と人々の教育ニーズ、そして教育達成の実態	木村涼子	2008/10/1		

所属： 教育学系 氏名： 志水 宏吉

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 15 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査1件、副査2件）、修士（主査1件、副査4件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程12名、前期課程4名、副指導教員：
後期課程0名、前期課程4名）、学部生 18名、留学生1名、研究生3名、
その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書4件、学術論文3件、国際会議2件、会議報告5件、
大学等の報告2件、解説・総説0件、書評0件、その他（ ）

所属： 教育学系 氏名： 山田 哲也

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 16 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 4 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 4 名、副指導教員：後期課程 12 名、前期課程 4 名）、学部生 18 名、留学生 1 名、研究生 3 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 2 件、学術論文 3 件、国際会議 0 件、会議報告 1 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（訳書 1 件）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	『教育社会学』	久富善之・長谷川裕編	2008/5/1	学文社	127-143
著書	『検証 地方分権化時代の教育改革 杉並区立「和田中」の学校改革』	荻谷剛彦・清水睦美・藤田武志・堀健志・松田洋介・山田哲也	2008/9/1	岩波書店	11-43
著書	『学校知識 カリキュラムの教育社会学』	ジェフ・ウィッティ	2009/3/1	明石書店	pp.28-67
学術論文	「新学力テストの性格と課題—ペダゴジーの社会学の視点から」	山田哲也	2008/7/1	『日本教育政策学会年報』	No.15, pp.38-57
大学・研究所等の報告	保護者が抱く不安のゆくえ—不安による離脱か、不安ゆえの協力あるいは監視か？	山田哲也	2009/3/1	『学校教育に関する保護者の意識調査 2008 報告書』	研究所報 vol.50
大学・研究所等の報告	格差を縮小する「学級効果」の探求—マルチレベルモデルを用いた分析	山田哲也	2009/3/1	『教育格差の発生・解消に関する調査研究報告書』	vol.52

所属： 教育学系 氏名： 鈴木 勇

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 2 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 件、副査 件）、修士（主査 件、副査 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 名、前期課程 名、副指導教員：
後期課程 名、前期課程 名）、学部生 名、留学生 名、研究生 名、
その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書0件、学術論文1件、国際会議0件、会議報告1件、
大学等の報告1件、解説・総説0件、書評0件、その他（ ）

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 16 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 3 件、副査 0 件）、修士（主査 7 件、副査 3 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 22 名、前期課程 13 名、副指導教員：
 後期課程 2 名、前期課程 4 名）、学部生 22 名、留学生 11 名、研究生 4 名、
 その他（ 外国人特別研究員 1 名 ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 4 件、学術論文 2 件、国際会議 9 件、会議報告 14 件、
 大学等の報告 0 件、解説・総説 3 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	国際緊急人道支援	中村安秀	2008/9/1	ナカニシヤ出版	
著書	子どもにやさしい学校	中村安秀	2009/1/1	ミネルヴァ書房	
学術論文	Human security approach for global health	Takemi K, Jimba M, Ishii S, Katsuma Y, Nakamura Y.	2008/9/1	The Lancet	372; 13-14
国際会議 (proceedings あり)	Maternal and Child Health Handbook in the World.	Nakamura Y.	2008/11/1	The 6th International conference on MCH Handbook	
解説・総説	ミレニアム開発目標 (MDGs)	中村安秀	2008/6/1	小児科臨床	61(6): 1113-1116
解説・総説	世界の小児科医の国際協力	中村安秀	2008/9/1	小児科	49(9): 1181-1187
解説・総説	子ども虐待に国境はない.	中村安秀	2008/10/1	子どもの虐待とネグレクト	10(2): 209-213

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 18 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 件、副査 3 件）、修士（主査 件、副査 7 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 名、前期課程 名、副指導教員：
 後期課程 6 名、前期課程 10 名）、学部生 5 名、留学生 名、研究生 名、
 その他（ J S P S 論博研究員 1 名 ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 2 件、国際会議 3 件、会議報告 3 件、
 大学等の報告 件、解説・総説 件、書評 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
学術論文	Japan's Development: What Economic Growth, Human Development and Subjective Well-Being Measures Tell us About?	Kusago, T.	2008/6/1	Thammasat Economic Journal	88-116
学術論文	苫前町地域通貨第二次流通実験報告—アンケート・インタビュー調査を中心に—	西部忠, 草郷孝好, 栗田健一, 吉田昌幸, 山本堅一, 宮崎義久	2008/8/1	Discussion Paper (Hokkaido University), Series B, No.2008-75.	1-59
学術論文	第4章 スキル・ディベロップメントに関する研究—ネパールにおける技術教育と職業訓練(TVET)の制度と課題	草郷孝好	2009/3/1	文部科学省「国際協力イニシアティブ」教育協力拠点形成事業最終報告書、広島大学教育開発国際協力研究センター	67-89
学術論文	第11章 TVET and Secondary School Education in Nepal	Kusago, T. and K.Phuyal	2009/3/1	文部科学省「国際協力イニシアティブ」教育協力拠点形成事業最終報告書、広島大学教育開発国際協力研究センター	181-215

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 9 科目 (オムニバスを除く)
 ② 学位論文審査： 博士 (主査 0 件、副査 0 件)、修士 (主査 1 件、副査 0 件)
 ③ 指導学生数： 大学院 (指導教員：後期課程 5 名、前期課程 2 名、副指導教員：
 後期課程 名、前期課程 名)、学部生 名、留学生 2 名、研究生 名、
 その他 ()

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 1 件、国際会議 4 件、会議報告 3 件、
 大学等の報告 1 件、解説・総説 4 件、書評 2 件、その他 ()

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
著書	『戦争と平和の間—紛争勃発後のアフリカと国際社会』	武内進一編	2008/11/1	アジア経済研究所	「ウガンダ 1986、南アフリカ 1994—紛争後の包括的政治体制の比較分析」 207-250 ページ
学術論文	"Changing Demographic of Labor Force and Productivity: A Case of Japan,"	Manjurika Koshal, Ashok K. Gupta, Rajindar K. Koshal, Chandra Akkihal and Yoichi Mine,	2008/3/1,	<i>Perspectives on Global Development and Technology,</i>	Volume 7, Number 2, pp. 175-187

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 15 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 件、副査 件）、修士（主査 件、副査 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 名、前期課程 名、副指導教員：
後期課程 名、前期課程 名）、学部生 60 名、留学生 名、研究生 名、
その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 件、学術論文 2 件、国際会議 2 件、会議報告 3 件、
大学等の報告 1 件、解説・総説 件、書評 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
学術論文	スポーツを通じたコミュニティエンパワメント	岡田千あき	2009/3/1	大阪大学大学院人間科学研究科紀要	第 35 巻 1 頁～20 頁
学術論文	開発途上地域におけるコミュニティ・スポーツ活動の評価枠組み	岡田千あき	2009/3/1	運動とスポーツの科学	第 14 巻 第 1 号, P.109-115
国際会議 (proceedings あり)	International Development through Sport from the Perspective of ODA Strategies of DAC Countries	Chiaki Okada	2008/7/1	5th World Congress of International Sociology of Sport Association	
国際会議 (proceedings なし)	Introduction of Sport into the Post-conflict Societies-A Comparative Study of Bosnia-Herzegovina, The Kingdom of Cambodia and East Timor-	Chiaki Okada	2008/11/1	ICSSPE Second International Seminar "Sport in Post-disaster Intervention"	
会議報告/口頭発表	開発途上国のコミュニティ・スポーツ活動に関する研究	岡田千あき	2008/6/1	日本運動スポーツ科学学会 第 15 回大会抄録集	
会議報告/口頭発表	カンボジア王国におけるコミュニティ・スポーツ活動の評価に関する研究	岡田千あき	2008/10/1	日本生涯スポーツ学会第 10 回大会抄録集	
会議報告/口頭発表	国際スポーツ・体育教育協力分野におけるボランティアの可能性と役割	澤山利広、深見英一郎、岡田千あき	2009/3/1	日本 NPO 学会抄録集	

分類(著書・学术论文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
会議報告/口頭発表	開発途上国における“コミュニティ・スポーツ”活動の形成過程に関する研究－カンボジアサッカーリーグを事例として－	岡田千あき	2009/3/1	第18回日本スポーツ社会学会プログラム抄録集	

所属：グローバル人間学系 氏名： 千葉 泉

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 13 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 0 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 2 名、副指導教員：後期課程 0 名、前期課程 2 名）、学部生 13 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 3 件、国際会議 0 件、会議報告 1 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
学術論文	「自分らしさ」を中心に据える —私が中南米の歌をうたう理由—	千葉泉	2009/3/1	東洋文化	89号、 41-65頁

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 15 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 2 件、副査 0 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 1 名、前期課程 2 名、副指導教員：
 後期課程 1 名、前期課程 0 名）、学部生 24 名、留学生 0 名、研究生 0 名、
 その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 3 件、国際会議 1 件、会議報告 件、
 大学等の報告 件、解説・総説 件、書評 2 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
学術論文	基地の街岩国の女性史	藤目ゆき(単著)	2008/4/1	アジア現代女性史研究会編集発行『アジア現代女性史』4号	42-56
学術論文	アジア現代女性史の試み	藤目ゆき(単著)	2009/3/1	牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズー女性学・男性学を学ぶ』大阪大学出版会	184-203
国際会議・学術論文	第二次世界大戦後日本の「女性解放」についてー繊維労働者と朝鮮戦争	藤目ゆき(単著)	2008/5/30	漢白大学平和研究所編『東アジアにおける戦争の記憶と平和共同体』報告集、韓国・ソウル	115-132
書評	解説『憤れる白い鳩ー20世紀台湾を生きて』	藤目ゆき(単著)	2008/4/1	アジア現代女性史研究会編集発行『アジア現代女性史』4号	70-73
書評	女性史の封印を解く仕事	藤目ゆき(単著)	2009/3/1	『森崎和江コレクションー精神史の旅 月報5』藤原書店	5-7
図書	新編日本のフェミニズム 10 女性史・ジェンダー史	藤目ゆき(共著)	2009/2/1	岩波書店	284-303 (全 326)

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 21 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 3 件、副査 4 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 4 名、副指導教員：
 後期課程 0 名、前期課程 1 名）、学部生 50 名、留学生 0 名、研究生 0 名、
 その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 0 件、学術論文 0 件、国際会議 0 件、会議報告 0 件、
 大学等の報告 1 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（調査報告書 1 件）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
その他	国際社会を生きる人づくりー外国人児童生徒と日本人児童生徒のと共生ー	小林清治	2008/11/1	大垣市西中学校区三校研究推進委員会	
その他	2008 年度岐阜県大垣市における外国人児童生徒の教育支援調査報告書	小林清治他	2009/3/1	大阪大学小林清治研究室	

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 22 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 3 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 1 名、副指導教員：
 後期課程 1 名、前期課程 5 名）、学部生 60 名、留学生 0 名、研究生 0 名、
 その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 10 件、国際会議 1 件、会議報告 3 件、
 大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
著書	A Basic Research on Functional Properties of Biodegradable Polymers (Mainly Antifreeze Protein) and its Applications/ 「生物資源(主として不凍タンパク質)の機能性発現とその応用開発に向けた基礎的研究」	Miyoshi,E.	2008/5/1	Reports of Research Project, Grant-in-Aid for Scientific Research (2005~2007)	p.p.1-119
学術論文	外部要因によって形成される現代女性の身体の理想像－自己対象化理論によるスリム志向の分析－	三好恵真子他	2008/4/1	科学研究費基盤研究(A)「着衣する身体と女性の周縁化」プロジェクト, web 掲載論文	p.p.1-32
学術論文	現代韓国女性の美意識－化粧文化の変遷および美容整形大国に至るまで－	三好恵真子他	2008/4/1	科学研究費基盤研究(A)「着衣する身体と女性の周縁化」プロジェクト, web 掲載論文	p.p.1-31
学術論文	グローバル化する中国の環境問題をどう捉えるべきか	三好恵真子	2008/7/1	New Food Industry	Vol.50, No. 7, 25-39

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
学術論文	全球經濟體系在中國所造成的石綿問題	三好恵真子	2008/7/1	「第二屆現代中国社会變動與東亞新格局」國際學術討論会 會議手冊&論文, 東華大学歴史学系, 日本大阪大学中国文化論壇, 南開大学歴史学院	p.p89-92, p.p.357-364
学術論文	現代韓国女性の美意識(1)－化粧品文化からみる美意識の変遷と美容整形ブームの出現－	李智英, 三好恵真子	2008/10/1	New Food Industry	Vol.50, No. 9, 73-83
学術論文	現代韓国女性の美意識(2)－美容整形手術がもたらす心理的变化とその功罪－	李智英, 三好恵真子	2008/11/1	New Food Industry	Vol.50, No. 10, 73-84
学術論文	Our Recent Findings on the Functional Properties of Gellan Gum	Miyoshi,E.	2009/3/1	Bulletin by Graduate School of Human Sciences	Vol.35, p.p.23-49
学術論文	Effects of Global Economic Systems on Asbestos Disaster in China	Miyoshi,E.	2009/3/1	Bulletin of Global Human Studies	Vol.1, p.19-29
学術論文	全球經濟體系在中國所造成的石綿問題/ Effects of Global Economic Systems on Asbestos Disaster in China/ グローバル経済システムがもたらす中国のアスベスト問題	Miyoshi,E./三好恵真子	2009/3/1	Discussion Papers in Contemporary China Studies, Osaka University Forum on China	No.2009-2, pp.1-22
国際会議 (proceedings あり)	Effects of Global Economic Systems on Asbestos Disaster in China /全球經濟體系在中國所造成的石綿問題	三好恵真子	2008/8/1	「第二屆現代中国社会變動與東亞新格局」國際學術討論会, 台湾花蓮	
会議報告/口頭発表	グローバル経済システムがもたらす中国のアスベスト問題	三好恵真子	2008/7/1	中国文化フォーラム・第二回セミナー, 大阪	第二回セミナー予稿集掲載
会議報告/口頭発表	低利用生物資源由来の不凍タンパク質の機能特性に関する基礎的研究 /A Basic Research on Functional Properties of Antifreeze Protein and its Applications	三好恵真子, 河原秀久, 小幡斉 /E. Miyoshi, H. Kawahara and H. Obata	2008/10/1	第56回レオロジー討論会, 新潟	第56回レオロジー討論会予稿集掲載

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
会議報告/口頭発表	中国食品を巡るリスクコミュニケーションー中国製冷凍ヨーザ 中毒事件を通じての消費者の安全・安心・信頼に関する一考察	三好恵真子	2009/3/1	中国文化フォーラム ラウンドテーブル, 尼崎高原ロッジ	要旨集掲載

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 18 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 1 件、副査 0 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 2 名、副指導教員：
 後期課程 1 名、前期課程 0 名）、学部生 16 名、留学生 1 名、研究生 0 名、
 その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 2 件、学術論文 1 件、国際会議 2 件、会議報告 0 件、
 大学等の報告 0 件、解説・総説 1 件、書評 2 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	マリア・ロストウォロフスキ著『征服者ピサロの娘 ドーニャ・フランシスカ・ピサロの生涯』	染田秀藤	2008/8/1	世界思想社	
学術論文	Conquista y contra conquista. "No hubo conquista": Vision del vencido sobre la teoria de la justa guerra de la conquista	染田秀藤	2008/12/1	科学研究費補助金成果報告書『アンデス先住民のクロニカ(記録文書)と「ナポリ文書-クロニカの新しい読み方-』	4-29.
国際会議 (proceedings あり)	En busca de nuevas formas de sobrevivir en el mundo colonial de los Andes -siglos XVI y XVII-	染田秀藤	2008/12/1	『科学研究費補助金成果報告書』	45-72
国際会議 (proceedings なし)	Caracteristicas y sentido historico del conflicto sociopolitico entre los curacas -Análisis del pleito de Guaman Poma contra Domingo Jauli- (VII Congreso Internacional de Etnohistoria. Lima)	SOMEDA, HIDEFUJI	2008/8/1		
国際会議 (proceedings なし)	Sentido historico de la imagen de los Incas en la sociedad indigena de los Andes coloniales (Santiago de Chile)	SOMEDA, HIDEFUJI	2008/8/1		
解説・総説	解題 サロモン・レルネル「暴力の記憶と民主主義の確立」	染田秀藤	2009/3/1	『コンフリクトの人文学』	Vol.1 34-39.

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
書評	書評 上野清士著『ラス・カサスへの道—500年後の〈新世界〉を歩く』新泉社	染田秀藤	2008/11/1	『図書新聞』	第 2894 号
書評	書評 網野徹哉著 『インカとスペイン 帝国の交錯』講談社刊	染田秀藤	2009/3/1	『アメリカ太平洋研究』(東京大学大学院総合文化研究科アメリカ太平洋センター)	第 9 号 pp.198-204

(4) 受賞・特許・作品、他

受賞年月	受賞者名	賞名	主催団体名
2008/4/1	染田秀藤	会田由賞	日本スペイン協会

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 17 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 1 件、副査 0 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 1 名、副指導教員：
 後期課程 0 名、前期課程 0 名）、学部生 20 名、留学生 1 名、研究生 1 名、
 その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 3 件、学術論文 1 件、国際会議 0 件、会議報告 2 件、
 大学等の報告 3 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	『タイの地域医療・福祉におけるソーシャル・ガバナンスの形成』	河森正人	2009/3/1	科学研究費補助金報告書	
著書	『第3章 タイ市民社会論』田坂敏雄編『東アジア市民社会論の展望』	田坂敏雄編、河森正人他	2009/3/1	御茶の水書房	80-97
著書	『第4章 タイの『30バツ医療制度』と市民社会』田坂敏雄編『東アジア市民社会論の展望』	田坂敏雄編、河森正人他	2009/3/1	御茶の水書房	98-113
学術論文	「いわゆる 30 バツ医療制度下における地域医療福祉制度改革—その『統制』的志向と『分権』的志向をめぐって」	河森正人	2008/7/1	『年報タイ研究』	No.8, 1-18
会議報告/口頭発表	「いわゆる 30 バツ医療制度における高齢者医療・福祉の位置付けと課題」	河森正人	2008/6/1	要旨集、東南アジア学会	
会議報告/口頭発表	「コミュニティ・レベルにおける官製セーフティネットの理念とその運用について—高齢者に対する地域医療・福祉を中心として」	河森正人	2008/7/1	要旨集、日本タイ学会	

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 19 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 2 件、副査 0 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 3 名、副指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名）、学部生 16 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 0 件、国際会議 0 件、会議報告 0 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 1 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	歴史学のフロンティア	秋田茂, 桃木至朗, 堤一昭, 中嶋啓雄, 村田路人, 富山一郎, 藤岡穰, 鈴木広和他	2008/10/1	大阪大学出版会	
その他	2007年の歴史学会—回顧と展望— ヨーロッパ 中世 中東 欧・北欧	鈴木広和	2008/5/1	史学雑誌	第117編 5号 319-323

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： _____ 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査_____件、副査_____件）、修士（主査_____件、副査_____件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程_____名、前期課程_____名、副指導教員：後期課程_____名、前期課程_____名）、学部生_____名、留学生_____名、研究生_____名、その他（ _____ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書_____件、学術論文_____件、国際会議_____件、会議報告_____件、大学等の報告_____件、解説・総説_____件、書評_____件、その他（ _____ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
著書	「タジキスタン共和国」『世界の社会福祉年鑑 第8集』	大谷順子	2008/12/1	旬報社	467-490 頁
著書	《通過国際衛生政策看中国》(中文版・単著)	大谷順子	2009/2/1	中国世紀出版集团有限公司 中国社科文献出版社(北京・香港)	
著書	「中央アジアの保健政策と国際医学誌など最新情報へのアクセス改善の必要性」『情報ネットワークで結ぶシルクロード—国際開発協力にみる現代中央アジア—』大杉卓三	大谷順子	2009/3/1	中国書店	75-76
学術論文	Women's community activities in Central Asia from gender perspectives	Asuka Kawano, Takuzo Osugi, Junko Otani	2008/12/1	Journal of Asian Women's Studies	Vol. 17:70-81
学術論文	「四川大地震に見る現代中国—阪神淡路大震災と福岡西方沖地震との比較を交えて—」	大谷順子	2009/3/1	九州大学アジア総合政策センター紀要	第3号 23-38 頁
学術論文	「中央アジア諸国におけるコミュニティ研究—ウズベキスタン、タジキスタン、キルギスにおける女性のコミュニティ活動を中心に—」	河野明日香、 大杉卓三、 大谷順子	2009/3/1	『アジア女性研究』	第18号 83-95 頁

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
国際会議 (proceedingsあり)	「人口政策—東アジアの場合」	大谷順子	2008/10/1	日本政治学会 「東アジアの環境悪化と人口高齢化が国際政治にどのような変化をもたらすか」分野(国際政治:猪口孝)	
国際会議 (proceedingsあり)	Long-term Recovery of Society and Community from the Earthquake	Junko Otani	2009/3/1	日本学術振興会(JSPS)機動的国際交流:第2回日中科学フォーラム「ブン川地震と防災科学技術」(3)「被災地社会の復旧・復興(Long-term Recovery of Society and Community)」(北京・四川)	
解説・総説	「飛躍する資源大国 中央アジア・カザフスタン」開催報告	大谷順子, 大杉卓三	2008/11/1	『現代中央アジアニュース』	第7号 6-7頁
解説・総説	「アルマティで発表された「プライマリ・ヘルスケア(PHC)宣言—1978年」と『世界保健報告書2008年』」	大谷順子	2009/1/1	『現代中央アジアニュース』	第8号 3-5頁
解説・総説	国際機関における生命倫理の取り組み	池辺織音、大谷順子	2009/3/1	九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト教育研究報告書「生命倫理を主題とする内容重視の言語指導教材・プログラム開発」	

所属：グローバル人間学系 氏名：福岡 まどか

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 20 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 件、副査 件）、修士（主査 件、副査2件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 名、前期課程 名、副指導教員：
後期課程 名、前期課程3名）、学部生 名、留学生 名、研究生 名、
その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 件、学術論文2件、国際会議 件、会議報告 件、
大学等の報告 件、解説・総説 件、書評 件、その他(事典 1件)

(3) 著書・論文

分類(著書 ・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元 ／掲載誌	巻号頁
著書	東南アジアを知る事典	福岡まどか	2008/6/1	平凡社	

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 1 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 件、副査 件）、修士（主査 件、副査 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 名、前期課程 名、副指導教員：後期課程 名、前期課程 名）、学部生 名、留学生 名、研究生 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 件、学術論文1件、国際会議3件、会議報告7件、大学等の報告 件、解説・総説 件、書評 件、その他（翻訳1件）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元/掲載誌	巻号頁
著書	エイジング心理学ハンドブック	安田純	2008/7/1	北大路書房	第3章 行動の遺 伝学とエイ ジング pp.31-41
学術論文	他児のいざこざへの保育園児の介入行動	安田純,日野林俊彦	2009/3/1	大阪大学大学院人間科学研究科紀要	35,99-117
会議報告/口頭発表	超低出生体重児の学齢期における心理・行動 -その 54 気質の変化と心理検査の関連-	安田純,金澤忠博,北村真知子,南徹弘	2008/9/1	日本心理学会第 72 回大会発表論文集	1190
会議報告/口頭発表	5 歳齢保育園児のごっこ遊びにみる相互交渉	安田純,日野林俊彦,南徹弘	2009/3/1	日本発達心理学会第 20 回大会発表論文集	150

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 8 科目
 ② 学位論文審査： 博士（主査 件、副査 1 件）、修士（主査 件、副査 件）
 ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 名、前期課程 名、副指導教員：
 後期課程 1 名、前期課程 1 名）、学部生 名、留学生 5 名、研究生 名、
 その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 1 件、国際会議 3 件、会議報告 3 件、
 大学等の報告 1 件、解説・総説 0 件、書評 1 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	ジェンダー・スタディーズー女性学・男性学を学ぶ	山本ベバリーアン	2009/3/1	大阪大学出版社	109-128
学術論文	A Vision of Modern Dance that Transcends Traditional Barriers: A Profile of Akiko Kuroda	Beverley Anne Yamamoto	2008/12/1	Journal of Asian Women's Studies	17
大学・研究所等の報告	「イギリスの十代妊娠対策の実際ーメイトン・スクール(妊娠学校)について」	山本ベバリーアン	2009/3/1	親力の形成と子育てに関わる機能の伝達に関する比較文化的研究ー若い親への子育て支援プログラム構築の基礎的検討平成20年度北九州看護福祉大学内共同研究報告書	
書評	In the Shadows:Sexuality, Pedagogy and Gender among Japanese Teenagers. By Genaro Castro-Vazquez, Lexington Books	Beverley Anne Yamamoto	2008/8/1	Journal of Japanese Studies	34 (2)

所属： 学生支援室 氏名： 丸田 健

(1) 平成 20 年度の教育活動に関する以下の項目について記述して下さい。

- ① 担当授業科目数： 4 科目
- ② 学位論文審査： 博士（主査 0 件、副査 0 件）、修士（主査 0 件、副査 0 件）
- ③ 指導学生数： 大学院（指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名、副指導教員：後期課程 0 名、前期課程 0 名）、学部生 0 名、留学生 0 名、研究生 0 名、その他（ ）

(2) 平成 20 年度の研究活動に関する以下の項目をについて記述して下さい。

- ① 研究業績の公表： 著書 1 件、学術論文 0 件、国際会議 0 件、会議報告 0 件、大学等の報告 0 件、解説・総説 0 件、書評 0 件、その他（ ）

(3) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	『自己・他者・関係』〈「社会学ベシックス」第 1 巻〉	丸田 健(分担共著)	2008/10/1	世界思想社	第 21 章 「言語ゲーム」 (211-20 頁)

(1) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	Legal culture in South-East Asia and East Africa	Masaru Miyamoto and Judeth John Baptist eds. Shin-ichiro Ishida	2008/12/1	Sabah Museum	145-239
会議報告/口頭発表	Legal pluralism and human rights in a Kenyan court: An analysis of “dowry” claim cases	Shin-ichiro Ishida	2008/5/1	Law and Society Association Montreal Conference	
解説・総説	ロンドン大学東洋アフリカ学院(SOAS)におけるアジア・アフリカ法研究及び教育の動向ーヴェルナー・メンスキー教授との交流を中心に	石田慎一郎・河村有教	2009/3/1	コンフリクトの人文文学	1: 251-259
書評	書評 Menski, W. Comparative law in a global context: The legal systems of Asia and Africa. (Second edition)	石田慎一郎	2008/11/1	社会人類学年報	34: 213-220
書評	書評 Donovan, J. Legal anthropology: An introduction. 2008	石田慎一郎	2009/3/1	コンフリクトの人文文学	1: 319-327
その他	蜂蜜を贈る農村(特集「結婚式の食」)	石田慎一郎	2008/7/1	ヴェスタ	71: 38-39

(1) 著書・論文

分類(著書・学术论文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
著書	ディアスポラのカ—ユダヤ文化の今日性をめぐる試論	ジョナサン・ボヤーリン、ダニエル・ボヤーリン(赤尾光春、早尾貴紀訳)	2008/6/1	平凡社	
著書	ユダヤ人と国民国家—「政教分離」を再考する	大塚和夫、市川裕、白杵陽、手島勲矢(編)	2008/9/1	岩波書店	283-318

所属：グローバルCOE事務局 氏名：古川 岳志

(1) 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元 ／掲載誌	巻号頁
書評	書評:石塚道子・田沼幸子・富山一郎編『ポスト・ユートピアの人類学』	古川岳志	2009/3/1	日本学報	28号

所属：グローバルCOE事務局 氏名：池上 裕子

(1) 著書・論文

分類(著書 ・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元 ／掲載誌	巻号頁
学術論文	巴里のアメリカ人:イリアナ・ソ ナベンド画廊の市場戦略	池上 裕子	2008/9/1	西洋美術研究	14号、 pp.106-120

(1) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
学術論文	技能変数をもちいた所得決定構造の分析	長松奈美江	2008/6/1	理論と方法	23(1): 73-89
学術論文	階級・階層研究における「機会の平等」概念についての考察	長松奈美江	2009/3/1	人間科学研究科紀要	35: 313-332
会議報告/口頭発表	Increasing Earnings Inequality by Occupation: Declining Earnings of the Middle Class in Competitive Sector Industries	Nagamatsu, Namie	2008/5/1	Fourth Joint Japan-North America Mathematical Sociology Conference	
会議報告/口頭発表	仕事の複雑性スコアの構成—職務内容を反映したもう一つの職業指標—	長松奈美江・阪口祐介・太郎丸博	2008/8/1	第46回数理社会学会大会報告要旨集	
会議報告/口頭発表	非正規雇用と職業—「雇用関係の変化」という視点から—	長松奈美江	2009/3/1	第47回数理社会学会大会報告要旨集	

所属：教育研究推進室(大学院教育改革支援プログラム) 氏名： 渡部 留美

(1) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
大学・研究所等の報告	日本の大学における留学生・研究者の家族の支援 ー 帯同配偶者への調査からー	渡部留美	2009/3/1	大阪大学大学院人間科学研究科紀要第35巻	35 巻

(1) 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元／掲載誌	巻号頁
学術論文	音楽のコミュニケーションに関する諸研究	河瀬諭	2009/3/1	大阪大学大学院人間科学研究科紀要	pp.295-311
国際会議 (proceedings あり)	Psychological Study of Strong Experiences in Listening to Music:Relationship between Physical Reactions and Acoustic Features of the Music	Shoko Yasuda, Toshie Nakamura, Maria Raluca Draguna, Satoshi Kawase, Kenji Katahira, Haruka Shoda	2008/8/1	Proceedings of ICMPC10	pp.496-499
国際会議 (proceedings あり)	Emotional Communication of a Pianist's Intended Expression via Acoustical and Visual Information.	Haruka Shoda, Toshie Nakamura, Maria Raluca Draguna, Satoshi Kawase, Kenji Katahira, Shoko Yasuda, Mayumi Adachi	2008/8/1	Proceedings of ICMPC10	pp.517-520
国際会議 (proceedings なし)	Effects of the Relationship Between Co-Performers' Body Movement on Coordination in Ensembles	Kenji Katahira, Toshie Nakamura, Satoshi Kawase, Shoko Yasuda, Haruka Shoda, Maria Raluca Draguna	2008/8/1		
国際会議 (proceedings なし)	Role of gazing behaviour in live performances: Case study.	Satoshi Kawase	2009/2/1		

所属：教育研究推進室(大学院教育改革支援プログラム) 氏名：吉田 崇

(1) 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元 ／掲載誌	巻号頁
学術論文	An Empirical Study of Intergenerational Transmission of Poverty from the Perspective of Income Mobility	Yoshimichi SATO and Takashi YOSHIDA	2008/10/1	Japan Labor Review	5(4)

所属：教育研究推進室(大学院教育改革支援プログラム) 氏名： 太田 健二

(1) 著書・論文

分類(著書 ・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元 ／掲載誌	巻号頁
学術論文	クラブカルチャーの文化社会的考察—メディア利用と空間利用という観点から	太田健二	2009/3/1	大阪大学大学院人間科学研究科紀要	第 35 卷